

言語聴覚学科

シラバスの変更一覧

学年	ページ	開講科目
1年	14	大学生生活論
1年	29	音声表記・分析学
1年	30	音響学
1年	34	高次脳機能障害概論
1年	37	脳性麻痺・運動発達の障害
1年	38	学習障害・発達障害
1年	44	臨床実習Ⅰ（見学実習）
2年	48～49	2024年度 言語聴覚学科2年生 年間予定表
2年	56	リハビリテーション医学
2年	58	形成外科学
2年	60	心理測定法
2年	65	言語聴覚障害診断学
2年	70	拡大・代替コミュニケーション
2年	80	臨床実習Ⅱ（評価実習）
2年	83	口腔衛生論
2年	84	保険診療・介護保険制度
3年	86～87	2024年度 言語聴覚学科3年生 年間予定表
3年	91	心理学系総論
3年	94	言語聴覚障害学臨床応用
3年	98	臨床実習Ⅲ（総合実習前期）
3年	99	臨床実習Ⅳ（総合実習後期）
3年	100	生命科学の基礎
3年	104	疾病論
3年	107	補綴・補装具論
3年	108～109	言語聴覚学特別講義Ⅰ
3年	110～111	言語聴覚学特別講義Ⅱ
	118	言語聴覚学科 教員一覧
	120～121	言語聴覚学科 実務経験を有する教員の科目一覧

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	CO-0-HSO-01				
	●		●	●						
科目名	大学生生活論				単位認定者	櫻庭 ゆかり 江畑 綾		授業内課題	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	1年	開講時期	通年	単位数	1 単位	評価の方法	受講態度	30 %
				授業形態	講義	授業時間数	30 時間			
						授業回数	15 回			
授業の概要	大学生生活を有意義に送るために必要となる姿勢、知識やスキルを身につける。具体的には、本学・各学科の教育方針の理解、大学での学び方（レポートの書き方、図書館の活用法等）、大学生生活の基礎知識（ネット社会の危険、消費者トラブル、交通ルールとマナー等）、健康にかかわる知識（睡眠・食生活、ドラッグの危険性、大学生が会うところの問題等）を身につける。									
到達目標	1. 大学生・社会人として基本的なマナーを身につける。 2. 大学生生活を有意義におくるために知識やスキルを身につける。									
学修者への期待等	大学生生活が有意義なものになるように計画された科目である。各自の目標を達成するために積極的に学ぶことを期待する。									
回	授業計画				準備学修			担当		
1	大学生生活について1：建学の精神、本学科の教育方針、入学許可証授与、授業ガイダンス、授業の狙いと方針							櫻庭ゆかり		
2	大学生生活について2：教務関係ガイダンス、学業の到達目標について				学生便覧に目を通しておくこと(30分程度)			櫻庭ゆかり		
3	健康にかかわる基礎知識1：体の健康について(睡眠・食生活など)				事後) 学んだことをまとめて次回提出のこと(30分程度)			櫻庭ゆかり 保健室		
4	大学での学びについて2：①レポートのまとめ方②図書館の活用方法の講義と演習				事後) 学んだことをまとめ、次回提出のこと(40分程度)			櫻庭ゆかり 図書室司書		
5	大学生生活に関わる基礎知識5：大学で出会うところの問題				事後) 授業内容をレポートとしてまとめ、次回提出のこと(30分程度)			櫻庭ゆかり 相談室		
6	大学での学びについて1：何のために学ぶか。授業の受け方、ノートの取り方				事後) 自分なりの勉強の仕方をレポートにして次週提出すること。(40分程度)			櫻庭ゆかり		
7	大学での学びについて3：国家試験合格に向けての勉強の仕方				事後) 国家試験についての具体的な計画を考えて次週提出すること(40分程度)			櫻庭ゆかり		
8	大学での学びについて：実習に向けての心構え。実習の概要と目的				事後) 実習について理解したことをまとめて次回提出のこと(40分程度)			櫻庭ゆかり		
9	言語聴覚士になるための心構え1. 言語聴覚士の仕事内容。何を求められているか。				事前) 自分の考えをレポートとしてまとめて提出すること(1時間程度)			江畑綾		
10	言語聴覚士になるための心構え2. チームアプローチについて				事後) 学んだことをまとめて次回提出のこと(40分程度)			江畑綾		
11	学修の仕方① 教科学修の説明、内容、使用方法				事後) 授業内容をレポートとしてまとめ、次回提出のこと(30分程度)			江畑綾		
12	学修の仕方② ポモドーロ法とドリル学習 ゲストスピーカー内部教員				事後) 授業内容をレポートとしてまとめ、次回提出のこと(30分程度)			江畑綾		
13	学修の仕方③ 脳の学修、画像の見方、立体的に掴むために				事後) 授業内容をレポートとしてまとめ、次回提出のこと(30分程度)			江畑綾		
14	コミュニケーションの取り方				事後) 授業内容をレポートとしてまとめ、次回提出のこと(30分程度)			江畑綾		
15	実習に向けて ビジネスマナー				事後) 授業内容をレポートとしてまとめ、次回提出のこと(30分程度)			江畑綾		
教科書	シラバス、学生便覧、『言語聴覚士国家試験必修ポイント 2024 ST基礎科目』『言語聴覚士国家試験必修ポイント 2024 ST専門科目』									
参考文献										
備考	授業内容は状況に応じて変更する場合がある。課題についてのフィードバックは、次回講義時、またはそれまでに口頭やレポートに記載する形で行う。□									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

言語聴覚士として20年以上の臨床経験あり。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	ST-1-PNT-02				
	●	●		●						
科目名	音声表記・分析学				単位認定者	櫻庭 ゆかり 木村 有希 内藤 真帆		試験(筆記)	50 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	レポート	30 %
							授業時間数		30 時間	受講態度
				授業形態	演習	授業回数			15 回	
授業の概要	国際音声記号を用いて○母国語としての日本語話者○日本語学習者○器質性構音障害○機能性構音障害症例の発音を記述するトレーニングを通し、臨床現場で活用できる速さと正確さを身につける。また、音声を視覚的にとらえ分析する手段のひとつに、スペクトログラムがある。本演習では、各々がパソコンソフトを用いてスペクトログラムを作成、観察し、自身の音声の特徴を分析する。									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・音声の物理的側面を理解し、科学的に分析する手法を身につける。 ・分析により、連続した音声から個々の音の特徴を導くことができる。 									
学修者への期待等	スペクトログラムの作成・観察・分析のため、調音位置・調音方法の復習を行うこと。									
回	授業計画				準備学修			担当		
1	日本語話者の正常構音① 日本語で用いられる単音節				【事前】国際音声記号を復習しておくこと(40分程度)			櫻庭 ゆかり		
2	日本語話者の正常構音② 複数音節～単語の書き取り				【事後】音源を聞きながら単語まで書き取りの練習をしておくこと(40分程度)			櫻庭 ゆかり		
3	日本語話者の正常構音③ 短文の書き取り				【事後】文章レベルでの書き取りの練習をしておくこと(40分程度)			櫻庭 ゆかり		
4	音声分析方法の概説・ソフトウェアの基本的操作				【事前】指定のソフトウェアをダウンロード・インストールしておくこと(1時間程度)			内藤 真帆		
5	障害音声の記述・分析について				【事後】配布資料を確認すること(30分程度)			木村 有希		
6	音響音声学とは(調音音声学と音響音声学)				【事前】音声学および音響学の知識を確認しておくこと(1時間程度)			内藤 真帆		
7	異常構音について① 器質性構音障害にみられる発話とは				【事後】配布資料を確認すること(30分程度)			木村 有希		
8	各母音の音響的特徴と調音位置・調音方法				【事後】講義内容に沿って自分の発音を分析・確認すること(1時間程度)			内藤 真帆		
9	異常構音について② 機能性構音障害にみられる発話とは				【事前】それぞれの構音の特徴を確認しておくこと(30分程度)			木村 有希		
10	各子音の音響的特徴と調音位置・調音方法				【事後】講義内容に沿って自分の発音を分析・確認すること(1時間程度)			内藤 真帆		
11	異常構音の聞き取り・書き取り練習① 音節・単語				【事前】それぞれの構音の特徴を確認しておくこと(30分程度)			木村 有希		
12	連続した音声の分析・考察				【事後】講義内容に沿って自分の発音を分析・確認すること(1時間程度)			内藤 真帆		
13	異常構音の聞き取り・書き取り練習② 音節・単語・短文				【事後】配布資料を確認すること(30分程度)			木村 有希		
14	構音症状の聞き取り・書き取り練習① 音節・単語				【事前】音声表記を復習しておくこと(30分程度)			木村 有希		
15	構音症状の聞き取り・書き取り練習② 音節・単語・短文				【事前】音声表記を復習しておくこと(30分程度)			木村 有希		
教科書	『口蓋裂の構音障害(Audio CD)』企画・監修:日本音声言語医学会 インテルナ出版 『たのしい音声学』竹内京子・木村琢也著 くろしお出版									
参考文献										
備考	11回から15回はパソコンを使用する。各自ノートパソコンを持参すること。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)
言語聴覚士として、臨床にて5年以上の経験あり。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	ST-1-ACS-01			
	●	●		●					
科目名	音響学				単位 認定者	本田 俊夫 矢入 聡		試験(筆記)	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の 方法	
					授業形態	講義	授業時間数		30 時間
				授業回数		15 回			
授業の概要	音響学とは、音に関する学問であり、音声や聴覚を専門とする言語聴覚士はその学修が必須である。音響学の入門は音を物理的な視点から波として考察することで、基本的な運動法則とエネルギーの保存原理に基づいて理解することが必要である。本講義では、基本的な音波の性質、音の強さの尺度（デシベルの定義）、音のスペクトル、閉管の共鳴を理解する。音響学は聴覚を通して人間そのものと密接に結びつく。聴覚フィルタ、マスキング、臨界帯域などの聴覚特性、音の大きさ・高さの知覚としての感曲線、ラウドネス、補充現象、心理的尺度、場所説と時間説、空間知覚についても併せて学んでいく。								
到達目標	波の基本的な特性を理解し、デシベルやスペクトルなど、音響関連の用語が説明できる。音声の特性やサウンドスペクトログラムの基礎を理解した上で、音声を分析する実践的なスキルを得る。								
学修者への 期待等	物理、対数を履修していなかった人、理数系が苦手な人にとって音響学は難しいと感じる科目ですが、音は生活の中に溢れています。事前に「準備学修」で指定された箇所を熟読するとともに、関連する身近な例を意識しながら授業に臨んでください。								
回	授業計画				準備学修			担当	
1	波の基本的性質				教科書 第1章1節「波の基本的性質」で予習・復習すること（概ね1時間）			本田 俊夫	
2	定常波と共鳴				教科書 第1章2節「定常波と共鳴」で予習・復習すること（概ね1時間）。			本田 俊夫	
3	倍音と階音、うなり、ドップラー効果				教科書 第1章3節「倍音と階音」で予習・復習すること（概ね1時間）。			本田 俊夫	
4	回折・反射・屈折				教科書 第1章6節「回折」、7節「反射と屈折」で予習・復習すること（概ね1時間）。			本田 俊夫	
5	音圧と音の強さ				教科書 第2章1節「音圧と音の強さ」で予習・復習すること（概ね1時間）。			本田 俊夫	
6	デシベルとその計算				教科書 第2章2節「デシベル」、第3節「デシベルの計算」で予習・復習すること（概ね1時間）。			本田 俊夫	
7	デシベルの基準値				教科書 第2章4節「デシベルの基準値」、5節「デシベルに関する補足事項」で予習・復習すること（概ね1時間）。			本田 俊夫	
8	【遠隔（オンデマンド）】純音の式と音の種類				教科書 第3章1節「純音の式」、2節「音の種類」で予習・復習すること（概ね1時間）。			矢入 聡	
9	【遠隔（オンデマンド）】色々な音のスペクトル				教科書 第3章3節「スペクトルの意味と実例」で予習・復習すること（概ね1時間）。			矢入 聡	
10	【遠隔（オンデマンド）】サウンドスペクトログラム				教科書 第3章4節「スペクトル分解の原理」、6節「サウンドスペクトログラム」で予習・復習すること（概ね1時間）。			矢入 聡	
11	【遠隔（オンデマンド）】音のデジタル化				教科書 第3章7節「音のデジタル化」で予習・復習すること（概ね1時間）。			矢入 聡	
12	【遠隔（オンデマンド）】音の大きさと高さの知覚				教科書 第4章1節「音の大きさの知覚」、2節「音の高さの知覚」で予習・復習すること（概ね1時間）。			矢入 聡	
13	【遠隔（オンデマンド）】マスキングと両耳聴				教科書 第4章3節「マスキング」、4節「両耳聴」で予習・復習すること（概ね1時間）。			矢入 聡	
14	【遠隔（オンデマンド）】母音とフォルマント				教科書 第5章1節「母音の生成の仕組み」、2節「母音とフォルマント」で予習・復習すること（概ね1時間）。			矢入 聡	
15	【遠隔（オンデマンド）】音響分析				教科書 第5章6節「総合分析」、7節「構音障害と音響分析」で予習・復習すること（概ね1時間）。			矢入 聡	
教科書	『言語聴覚士の音響学入門（2訂版）』 吉田友敬著、海文堂								
参考文献									
備考	8～15回目は遠隔授業（オンデマンド）で実施する								

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
	●	●		●	

科目ナンバリング
ST-2-AHB-02

科目名	高次脳機能障害概論				単位認定者	平山 和美		評価の方法	試験（筆記）	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位		試験（筆記）	100 %
					授業形態	講義	授業時間数	30 時間		
						授業回数	15 回			
授業の概要	高次脳機能障害領域における言語聴覚士にとって必須の事項を理解する。各種高次脳機能障害と関連の深い脳部位について学び、人間の精神活動の階層性及び高次脳機能障害の学問上の定義と行政的な定義について理解する。大脳の左右半球との関連が深い障害（失語症、失行症、半側空間無視、構成障害、地誌的見当識障害など）、脳梁の働きと大脳離断症候群について学修する。また前頭前野、頭頂葉、後頭葉と関連が深い障害について学ぶ。さらに高次脳機能障害の評価の基本的な考え方、評価方法について学んでいく。									
到達目標	重要な高次脳機能障害領域の症状や機序、診察法について説明できる。									
学修者への期待等	教科書、配布資料で予習、復習を行い授業内容を十分に理解することを望みます。									
回	授業計画					準備学修				
1	総論（基本的な考え方と注意点）					教科書第1章を読んでおくこと（30分程度）				
2	注意の障害					事前に資料を配布するので、読んでおくこと（30分程度）。				
3	視覚認知の障害（対象認知）					教科書第17章から26章を読んでおくこと（30分程度）				
4	視覚認知の障害（運動・空間、行為に関わる認知）					教科書第27章から31章を読んでおくこと（30分程度）				
5	聴覚認知の障害					教科書第32章から37章を読んでおくこと（30分程度）				
6	体性感覚認知の障害					教科書第38章から43章を読んでおくこと（30分程度）				
7	身体意識・病態認知の障害					事前に資料を配布するので、読んでおくこと（30分程度）。				
8	行為の実行の障害					教科書第44章から51章を読んでおくこと（30分程度）				
9	行為の抑制の障害					教科書第52章から59章を読んでおくこと（30分程度）				
10	出来事記憶の障害					教科書第60章から61章および63章から68章を読んでおくこと（30分程度）				
11	言語性短期記憶・意味記憶、記憶障害の診察					教科書第62章および69章から72章を読んでおくこと（30分程度）				
12	器質的な疾患に伴う幻覚と妄想					事前に資料を配布するので、読んでおくこと（30分程度）。				
13	社会的行動障害、意欲・情動の障害					事前に資料を配布するので、読んでおくこと（30分程度）。				
14	遂行機能障害、その他					事前に資料を配布するので、読んでおくこと（30分程度）。				
15	総括					事前に資料を配布するので、読んでおくこと（30分程度）。				
教科書	『高次脳機能障害の理解と診察』 平山 和美編著 中外医学社									
参考文献										
備考										

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング					
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	ST-2-LDS-03					
		●		●							
科目名	脳性麻痺・運動発達の障害				単位認定者	木村 有希 千木良 あき子		試験(筆記)	70	%	
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	授業内課題等	20	%
				授業形態	講義	授業時間数	30 時間		受講態度	10	%
						授業回数	15 回				
授業の概要	脳性麻痺は運動障害と発達の問題を包含している。本講義では、多様で複雑な障害像を呈する脳性麻痺を理解するために、原始反射・姿勢反応と運動発達との関連などを学修し、言語発達の問題や構音障害をはじめとする言語障害へのアプローチ、及び摂食嚥下障害に対するアプローチについて学ぶ。さらに、生涯にわたって変化していく障害像に対し、ライフステージに応じた対応や多職種でのアプローチについて紹介し、言語聴覚士としての支援について考える機会とする。										
到達目標	正常発達を理解したうえで、脳性麻痺の臨床像について説明できるようになる。 健常児と脳性麻痺児の運動の違いを理解し、各類型の姿勢と運動の特徴を説明できるようになる。 障害児(者)の摂食嚥下機能障害に対する評価及び発達療法的対応の基礎知識を習得する。 対象児(者)の生活における困難さを理解し、言語聴覚士としてどんな支援ができるのか考え、表現できるようにする。										
学修者への期待等	障害児(者)にかかわる言語聴覚士について理解する。										
回	授業計画				準備学修			担当			
1	小児、心身障害児(者)と家族に寄り添う視点				配布資料を提示する			千木良 あき子			
2	脳性麻痺とは① 定義、原因と臨床像				配布した資料を授業後に確認・復習をしてください。(30分程度)			木村 有希			
3	脳性麻痺とは② 姿勢と運動の障害とは				配布した資料を授業後に確認・復習をしてください。(30分程度)			木村 有希			
4	中途障害と心身障害児(者)の違い：形態発育と機能発育、加齢・疾病と機能低下、脳性麻痺の形態発育(口腔)の問題				配布資料を提示する			千木良 あき子			
5	摂食嚥下機能の定型発達と発達段階評価				配布資料を提示する			千木良 あき子			
6	脳性麻痺の臨床的病型① 痙直型・アトーゼ型				配布した資料を授業後に確認・復習をしてください。(30分程度)			木村 有希			
7	脳性麻痺の臨床的病型② 低緊張型・失調型・混合型				配布した資料を授業後に確認・復習をしてください。(30分程度)			木村 有希			
8	発達の变化 ライフステージにおける臨床像の変化				配布した資料を授業後に確認・復習をしてください。(30分程度)			木村 有希			
9	脳性麻痺の方の生活の理解、重症心身障害児(者)の理解				配布資料を提示する			櫻庭 ゆかり			
10	代表的症例(脳性麻痺、知的能力障害、経管依存症、自閉症スペクトラム症)				配布資料を提示する			千木良 あき子			
11	コミュニケーション面の評価				配布資料を提示する			櫻庭 ゆかり			
12	口腔ケアの重要性と対応の基本、チームアプローチ				配布資料を提示する			千木良 あき子			
13	コミュニケーション面の訓練				配布資料を提示する			櫻庭 ゆかり			
14	摂食嚥下機能面の評価				配布資料を提示する			櫻庭 ゆかり			
15	摂食嚥下機能面の訓練				配布資料を提示する			櫻庭 ゆかり			
教科書	『赤ちゃんが自分で食べていくためのサポートガイド 摂食機能発達のための口・手・こころの育て方』向井美恵、千木良あき子、田村文誉(編著) 医歯薬出版										
参考文献	『食べる機能の障害』金子芳洋(編)金子芳洋、向井美恵、尾本和彦(著) 医歯薬出版 『小児の摂食嚥下リハビリテーション 第2版』田角勝、向井美恵(編著) 医歯薬出版										
備考											

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

歯科医師として臨床に30年以上携わっている。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	ST-2-LDS-04				
		●		●						
科目名	学習障害・発達障害				単位認定者	木村 有希 須賀川 芳夫		試験(筆記)	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	受講態度	30 %
							授業時間数		30 時間	
				授業形態	講義	授業回数	15 回			
授業の概要	本講義では、学習障害・発達障害の歴史的背景、診断基準、支援の基本的な考え方を学修する。主に発達障害についての概観、知的発達障害、自閉性障害、学習障害（読み書き障害、算数障害など）、注意欠如／多動性障害（AD/HD）を取り上げ、それぞれの障害への理解を深める。また、臨床に必要な幼児の発達の基礎、言葉の育ち、幼児支援に対するアセスメントについて講義を通して学び、支援方法を身につける。									
到達目標	学習障害及び発達障害の定義や特性、支援の方法について理解を深める。									
学修者への期待等	講義内で学んだ発達障害・学習障害について基本的な内容を理解し説明することができるようになることを期待する。									
回	授業計画				準備学修			担当		
1	発達障害の概念・定義							須賀川 芳夫		
2	知的発達障害の診断基準と支援/ダウン症とウィリアムス症候群				授業後に配布した資料を確認しておくこと(30分)			須賀川 芳夫		
3	自閉スペクトラム症の基本症状				授業後に配布した資料を確認しておくこと(30分)			須賀川 芳夫		
4	学習障害の定義と下位分類				授業後に配布した資料を確認しておくこと(30分)			須賀川 芳夫		
5	読み書きの困難、心理的疑似体験				授業後に配布した資料を確認しておくこと(30分)			須賀川 芳夫		
6	読み書きの困難の評価				授業後に配布した資料を確認しておくこと(30分)			須賀川 芳夫		
7	読み書きの困難への対応・支援				授業後に配布した資料を確認しておくこと(30分)			須賀川 芳夫		
8	算数障害のサブタイプと支援				授業後に配布した資料を確認しておくこと(30分)			須賀川 芳夫		
9	自閉スペクトラム症当事者の声				授業後に配布した資料を確認しておくこと(30分)			木村 有希		
10	心の理論について				授業後に配布した資料を確認しておくこと(30分)			木村 有希		
11	自閉スペクトラム症の概念と変遷				授業後に配布した資料を確認しておくこと(30分)			木村 有希		
12	自閉スペクトラム症児への支援				授業後に配布した資料を確認しておくこと(30分)			木村 有希		
13	ADHDの症状と二次障害				授業後に配布した資料を確認しておくこと(30分)			木村 有希		
14	ADHDの基本的な対応				授業後に配布した資料を確認しておくこと(30分)			木村 有希		
15	幼児の育ち、言葉の育ちに必要なもの・幼児支援のアセスメント				授業後に配布した資料を確認しておくこと(30分)			木村 有希		
教科書	『標準言語聴覚障害学 言語発達障害学（最新版）』玉井ふみ、深浦順一編 医学書院									
参考文献	参考書：『健診とことばの相談』中川信子（著）ぶどう社 『教師のため合理的配慮の基礎知識』西村修一・久田信行（著）明治図書									
備考										

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

言語聴覚士として、臨床にて20年以上の経験あり。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	ST-2-CLT-01				
	●	●	●	●						
科目名	臨床実習 I (見学実習)				単位認定者	櫻庭 ゆかり 渡邊弘人 中川 大介 鈴木 将太 江畑 綾 木村 有希		実習先の評価： 知識・人物・適性	50 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	学内の評価： 準備・報告書等	50 %
				授業形態	実習	授業時間数	45 時間			
						授業回数	- 回			
授業の概要	<p>実習施設において実際の臨床を見学することで言語聴覚療法に対する認識を高めることを目的とする。リハビリテーションの専門職につくための自覚を持つとともに、言語聴覚療法及び摂食嚥下療法の活動見学を通し、挨拶、時間の順守、態度を含めた社会人としての在り方、対象者の尊厳の理解、対象者とのコミュニケーションの取り方、接し方など言語聴覚士に必要な基本的資質を身につける。</p> <p>また、臨床現場における言語聴覚士の役割と位置づけ、他職種との連携などを通して、リハビリテーションチームとは何かを学修する。実習後に個人面談を行い、臨床実習指導者からのフィードバックと学生自身の評価から、今後の課題と目標を考察し、実習を総括する。</p>									
到達目標	<p>言語聴覚療法について具体的にイメージできる。社会人としての在り方を理解し、実行できる。言語聴覚士に求められる基本的資質を理解する。</p>									
学修者への期待等	<p>言語聴覚士の臨床活動の見学を通して、自身の足りない点を含め、自らと向き合ってほしい。そのうえで、次年度の学修における努力目標を明確にできることを期待する。</p>									
授業計画										
<p>1. 実習期間 1単位 45時間 実習時期 9月4週～10月1週の間で1週</p> <p>2. 実習の目的 実習施設において実際の臨床を見学することで、言語聴覚療法に対する認識を高める。また、他職種との連携などを通して、リハビリテーションチームとは何かを学修する。</p> <p>3. 実習の目標 (ねらい) 1) リハビリテーションの専門職に就くための自覚を持つ。 2) 他職種との連携などを通して、リハビリテーションチームとは何かを学修する。 3) 対象者とのコミュニケーションの取り方、接し方など言語聴覚士に必要な基本的資質を身につける。</p> <p>4. 実習計画 オリエンテーション 実習前3時間 実習後2時間 計5時間 1) 実習施設は言語聴覚士が治療業務に従事している医療機関、社会福祉施設とする。 2) 実習時間は従事する言語聴覚士の勤務時間に順じ、1日を8時間とする。 3) 実習施設でのオリエンテーションや言語聴覚士の臨床活動を見学する。 4) 毎日の実習日誌と指導者からの課題を提出し、指導を受ける。 5) 実習期間終了後、実習報告書を提出する。</p>										
教科書	適宜紹介する。									
参考文献	適宜紹介する。									
備考	外部実習のフィードは実習終了後、口頭および書面にて学内実習の中で実施する。内部実習については、その都度口頭・書面にてフィードバックを行う。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

言語聴覚士として20年以上の臨床経験あり。

2024年度 言語聴覚学科2年生 年間予定表

前期

		日	月	火	水	木	金	土
4月			1	2	3 入学式	4	5 健康診断	6
	7	8	9	10	11	12	13	
	14	15	16	17	18 合同体育祭	19	20	
	21	22	23	24	25	26	27	
	28	29 昭和の日	30	1	2	3 憲法記念日	4 みどりの日	
5月	5 こどもの日	6 振替休日	7	8	9	10	11	
	12	13	14	15	16	17	18	
	19	20	21	22	23	24	25	
	26	27	28	29	30	31	1	
6月	2	3	4	5	6	7	8	
	9	10	11	12	13	14	15	
	16	17	18	19	20	21	22	
	23	24	25	26	27	28	29	
	30	1	2	3	4	5	6	
7月	7	8	9	10	11	12	13	
	14	15 海の日	16	17	18	19	20	
	21	22	23	24	25	26	27	
	28	29 定期試験	30 定期試験	31 定期試験	1 定期試験	2 定期試験	3	
8月	4	5 追試験	6 追試験	7	8	9	10	
	11 山の日	12 振替休日	13	14	15	16	17	
	18	19	20	21	22 不合格者発表	23	24	
	25	26	27	28	29 再試験	30 再試験	31	
9月	1	2	3	4	5	6	7	
	8	9	10	11	12	13	14	
	15	16 敬老の日	17	18	19	20	21	
	22 秋分の日	23 振替休日	24	25	26	27	28	
	29	30						

※振替授業日については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。
 ※追試験の日程については、別途、掲示にて確認してください。
 ※再試験の日程については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。

2024年度 言語聴覚学科2年生 年間予定表

後期

		日	月	火	水	木	金	土
10月				1	2	3	4	5
	6	7	8	9	10	11	12	
	13	14 スポーツの日	15	16	17	18	19	
	20	21	22	23	24	25	26 せいよう祭	
	27	28	29	30	31	1	2	
11月	3 文化の日	4 振替休日	5	6	7	8	9	
	10	11	12	13	14	15	16	
	17	18	19	20	21	22	23	
	24	25	26	27	28	29	30	
12月	1	2	3	4	5	6	7	
	8	9	10	11	12	13	14	
	15	16	17	18	19	20	21	
	22	23	24	25	26	27	28	
	29	30	31	1	2	3	4	
1月	5	6	7	8 定期試験	9 定期試験	10 定期試験	11	
	12	13 成人の日	14 定期試験	15 定期試験	16 追試験	17 追試験	18	
	19	20	21	22 実習指導	23 実習指導	24 実習指導	25	
	26	27	28	29 臨床実習Ⅱ	30 臨床実習Ⅱ	31 臨床実習Ⅱ	1	
2月	2	3 臨床実習Ⅱ	4 臨床実習Ⅱ	5 臨床実習Ⅱ	6 臨床実習Ⅱ	7 臨床実習Ⅱ	8	
	9	10 臨床実習Ⅱ	11 建国記念日	12 臨床実習Ⅱ	13 臨床実習Ⅱ	14 臨床実習Ⅱ	15	
	16	17 臨床実習Ⅱ	18 臨床実習Ⅱ	19 臨床実習Ⅱ	20	21	22	
	23 天皇誕生日	24 振替休日	25 実習指導	26 不合格者発表	27	28	1	
3月	2	3	4	5	6	7	8	
	9	10	11 再試験	12 再試験	13	14	15	
	16	17	18 卒業式	19	20 春分の日	21	22	
	23	24	25	26	27	28	29	
	30	31						

※振替授業日については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。
 ※追試験の日程については、別途、掲示にて確認してください。
 ※再試験の日程については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	ST-1-CLM-05			
		●		●					
科目名	リハビリテーション医学				単位認定者	水尻 強志		試験(筆記)	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	
						授業時間数	30 時間		
				授業形態	講義	授業回数	15 回		
授業の概要	リハビリテーション医学の歴史と定義、全人的復権に関する理念を学修し、各論では脳損傷(脳血管障害、頭部外傷)、神経筋疾患、脊椎損傷、肩関節疾患などの各種疾患のリハビリテーションについて学ぶ。さらには痙縮、疼痛、褥瘡などの合併症の管理方法やリハビリテーション栄養、神経学的評価、リハビリテーション科で行う生理的検査(神経伝送検査、筋電図など)について学び、リハビリテーション専門職として、また言語聴覚士として必要なリハビリテーション医学の基礎的素養を身につける。								
到達目標	1. 第一線医療機関で必要なリハビリテーション医学の基礎的素養を身に付ける 2. 嚥下障害の診断と治療を理解する								
学修者への期待等	リハビリテーション科専門医が、日常診療で重要だと考えている内容について講義をする。せっかくの機会であり、遠慮せずに質問をして欲しい。								
回	授業計画				準備学修			担当	
1	リハ医学総論3 (ICFによる全人的評価)				テキスト第2章 脳卒中リハビリテーションの進め方 参照。(30分程度)			藤原 大	
2	リハ医学総論3 リハビリテーションで行う検査(頭部画像、血液、神経生理学検査など)				テキスト第2章 脳卒中リハビリテーションの進め方 参照。(30分程度)			藤原 大	
3	リハ医学総論1 (高齢社会と高齢者医療)				テキスト第1章 I 高齢社会と高齢者医療、第5章 関係する諸制度 参照。(30分程度)			水尻 強志	
4	リハ医学総論1 (リハビリテーション医学の歴史と定義)				テキスト第1章 I 高齢社会と高齢者医療、第5章 関係する諸制度 参照。(30分程度)			水尻 強志	
5	リハ医学総論3 リハビリテーションにおける栄養管理				テキスト第3章 脳卒中によくある合併症とその対策 参照。(30分程度)			藤原 大	
6	リハ医学総論1 (ADLと手段的ADL、廃用症候群と運動学習)				テキスト第1章 I 高齢社会と高齢者医療、第5章 関係する諸制度 参照。(30分程度)			水尻 強志	
7	リハ医学総論2 (超高齢社会における医療倫理の諸課題-終末期医療、リスクマネジメントと身体抑制)				テキスト第4章 脳卒中医療に関係する倫理的問題、第3章 脳卒中によくある合併症とその対策 参照。(30分程度)			水尻 強志	
8	各種疾患のリハビリテーション1 (中枢神経障害の評価(脳血管障害など))				テキスト第2章 脳卒中リハビリテーションの進め方 参照。(30分程度)			水尻 強志	
9	各種疾患のリハビリテーション2 神経筋疾患(パーキンソン病、脊髄小脳変性症、筋萎縮性側索硬化症など)、末梢神経障害				配布資料で復習をすること。(30分程度)			水尻 強志	
10	各種疾患のリハビリテーション3 小児疾患、脊髄障害、骨関節疾患、切断、義肢・装具、支給制度				配布資料で復習をすること。(30分程度)			水尻 強志	
11	合併症管理(痙縮 疼痛)				テキスト第3章 脳卒中によくある合併症とその対策 参照。(30分程度)			阿部 理奈	
12	合併症管理(褥瘡とリハビリテーション栄養)				テキスト第3章 脳卒中によくある合併症とその対策 参照。(30分程度)			阿部 理奈	
13	嚥下障害について(嚥下障害)				テキスト第3章 脳卒中によくある合併症とその対策 参照。(30分程度)			金成 建太郎	
14	嚥下障害について(胃瘻と流動食)				テキスト第3章 脳卒中によくある合併症とその対策 参照。(30分程度)			金成 建太郎	
15	嚥下障害について (誤嚥性肺炎とリハビリテーション栄養)				テキスト第3章 脳卒中によくある合併症とその対策 参照。(30分程度)			金成 建太郎	
教科書	『脳卒中リハビリテーション』第3版 水尻強志・富山陽介(編) 医歯薬出版								
参考文献									
備考	講義は対面授業で行う予定。ただし、状況によってはオンライン授業に変更することもあり。								

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

医師として、臨床に30年以上携わっている。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	ST-1-CLM-07				
		●		●						
科目名	形成外科学				単位認定者	佐藤 頭光		試験(筆記)	80 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	受講態度	20 %
						授業時間数	30 時間			
				授業形態	講義	授業回数	15 回			
授業の概要	形成外科は、先天的あるいは後天的な体表の変形を手術的に正常な状態に復して、形態と機能、並びに精神的にもQOLを高め、社会復帰に益することを目標としている。本講義では、唇裂口蓋裂、頭頸部がん、開口障害をきたし得る外傷や熱傷、骨折、疾患による顎顔面変形など、治療対象疾患についての診断、治療原理や術式について学んでいく。さらには、言語聴覚士による手術前後のリハビリテーションについて、構音障害と摂食嚥下障害の評価と訓練を学修する。									
到達目標	頭頸部がんの治療における適切な再建手術について説明できる、口唇裂・口蓋裂について起こりえる障害を説明でき、成長期までに必要な手術について順次説明することが出来る。口蓋裂を呈する先天性疾患を挙げることが出来る。開口障害を呈する頭部顔面外傷を挙げることが出来る。									
学修者への期待等	教科書の記載のみでは理解しづらい形成外科の疾患に関して多くの臨床写真を提示して理解を深めてもらいたい。資料では写真は十分に示せません。授業中に集中して勉強しましょう。									
回	授業計画			準備学修			担当			
1	口腔・顎・顔面の先天異常，発育異常・口蓋裂に伴う顎発達異常と歯の異常について			事前に配布される資料に目を通しておいてください。(30分程度)			中山 孝子			
2	咬合異常、顎変形症について			事前に配布される資料に目を通しておいてください。(30分程度)			中山 孝子			
3	形成外科総論 形成外科とは、創傷治癒と再建外科の基礎知識			特にありません			後藤 孝浩			
4	人工材料による機能回復について			事前に配布される資料に目を通しておいてください。(30分程度)			中山 孝子			
5	唇裂口蓋裂総論① 唇顎口蓋裂総論と疫学、発生学について			事前に配布される資料に目を通しておいてください。(20分程度)			佐藤 頭光			
6	唇裂口蓋裂総論② 学童期までに行われる治療について(唇裂手術、口蓋裂手術、顎裂部骨移植)			前回講義の小テストを復習し、事前に配布される資料に目を通しておくこと。(30分程度)			佐藤 頭光			
7	唇裂口蓋裂総論③ 学童期以降に行われる治療について(鼻咽腔閉鎖不全、唇裂鼻修正手術、顎矯正手術)			前回講義の小テストを復習し、事前に配布される資料に目を通しておくこと。(30分程度)			佐藤 頭光			
8	唇裂口蓋裂総論④ 宮城県こども病院での口唇口蓋裂治療			特にありません			真田 武彦			
9	唇裂口蓋裂総論⑤ 社会的問題、合併症の問題、親の心理的問題などについて			特にありません			真田 武彦			
10	口蓋裂を有する頭蓋顎顔面異常について 頭蓋顎顔面異常をきたす先天異常とその治療について			特にありません			真田 武彦			
11	頭頸部癌総論 (癌治療の基礎知識、頭頸部再建の基本)			前回講義の資料を復習してください(30分程度)			後藤 孝浩			
12	頭頸部再建① (口腔・中咽頭の再建)			前回講義の資料を復習してください(30分程度)			後藤 孝浩			
13	頭頸部再建② (下咽頭その他の再建)			前回講義の資料を復習してください(30分程度)			後藤 孝浩			
14	唇裂口蓋裂総論③ 学童期以降に行われる治療について(鼻咽腔閉鎖不全、唇裂鼻修正手術、顎矯正手術)			前回講義の小テストを復習し、事前に配布される資料に目を通しておくこと。(30分程度)			佐藤 頭光			
15	頭蓋顎顔面外科・後天的顎顔面変形 頭蓋顎顔面外科についてと、開口障害をきたしうる外傷や熱傷について			前回講義の小テストを復習し、事前に配布される資料に目を通しておくこと。(30分程度)			佐藤 頭光			
教科書	特に指定の教科書を買う必要はありません									
参考文献	『標準形成外科学 第6版』平林慎一、鈴木茂彦(著) 医学書院 『嚥下障害の臨床ーリハビリテーションの考え方と実際』小椋脩(著) 医歯薬出版 『口唇裂・口蓋裂治療の手引』昭和大学(著) 金原出版									
備考										

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	ST-1-PCL-04			
		●		●					
科目名	心理測定法				単位 認定者	渡邊 弘人 鈴木 將太 田島 裕之		試験(筆記)	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	2年	開講時期	通年	単位数	1 単位	評価の方法	
						授業時間数	30 時間		
				授業形態	講義	授業回数	15 回		
授業の概要	心理測定法とは、心理現象を把握するために用いる研究手法である。本講義では、心理測定の基礎について、測定対象、測定方法、恒常誤差、尺度水準、尺度構成法、テスト理論、調査法、データ解析法について学修し、心理測定法に関する知識を身につける。講義後半には言語聴覚領域との関連の深い事例について、測定の実践を通して理解を深める。								
到達目標	心理学において用いられる主な測定法とデータ解析法の特徴を知る								
学修者への期待等	質疑応答の機会を設けますので、わからないことがありましたら遠慮なく質問してください。								
回	授業計画			準備学修			担当		
1	心理測定の基礎			答えられなかった練習問題に答えられるようにしておくこと(概ね1時間)			田島 裕之		
2	測定値の分布の要約			答えられなかった練習問題に答えられるようにしておくこと(概ね1時間)			田島 裕之		
3	尺度構成法			答えられなかった練習問題に答えられるようにしておくこと(概ね1時間)			田島 裕之		
4	様々な測定法			答えられなかった練習問題に答えられるようにしておくこと(概ね1時間)			田島 裕之		
5	変数間の関係とその要約			答えられなかった練習問題に答えられるようにしておくこと(概ね1時間)			田島 裕之		
6	検査の妥当性と信頼性			答えられなかった練習問題に答えられるようにしておくこと(概ね1時間)			田島 裕之		
7	多変量解析と統計的検定			答えられなかった練習問題に答えられるようにしておくこと(概ね1時間)			田島 裕之		
8	系統誤差と研究法			答えられなかった練習問題に答えられるようにしておくこと(概ね1時間)			田島 裕之		
9	聴覚領域検査における研究(1) データの種類 の紹介			言語聴覚療法に関わる論文を読むこと (概ね60分)			渡邊 弘人		
10	聴覚領域検査における研究(2) 研究論文の 解説			前回の講義資料を読むこと(概ね 60分)			渡邊 弘人		
11	聴覚領域検査における研究(3) 研究論文 データをアクティブラーニング的に解説			論文を読み、データについて考察す ること(概ね60分)			渡邊 弘人		
12	聴覚領域検査における研究(4) 研究にお けるデータをまとめる グループワーク			言語聴覚療法に関わる論文を読むこ と(概ね60分)			渡邊 弘人		
13	言語聴覚療法研究法・高次脳機能障害系(1) 研 究、プロセス、研究の種類			言語聴覚療法に関連する資料の復習 (概ね60分)			鈴木 將太		
14	言語聴覚療法研究法・高次脳機能障害系(2) デ ータと測定、研究の種類について			言語聴覚療法に関連する資料の復習 (約60分)			鈴木 將太		
15	言語聴覚療法研究法・高次脳機能障害系(3) 職 業倫理と倫理綱領、まとめ			言語聴覚療法に関連する資料の復習 (約60分)			鈴木 將太		
教科書	指定なし								
参考文献	参考書：『心理測定法への招待：測定からみた心理学入門』市川伸一編著 サイエンス社								
備考									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

言語聴覚士として、臨床に5年以上の経験あり。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	ST-2-LSG-02				
		●		●						
科目名	言語聴覚障害診断学				単位認定者	櫻庭ゆかり 渡邊弘人 江畑 綾		試験（筆記）	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位	評価の方法	受講態度	30 %
				授業形態	講義	授業時間数	30 時間			
						授業回数	15 回			
授業の概要	言語聴覚士が対象者と相対したときの基本的観察点を身につけ、所見報告ができること、また障害の鑑別と適切な検査の選定が可能となることを目標とする。本講義の前半では、初回面接において収集すべき情報と観察の視点、面接の方法、初診時評価の対象、障害範囲の絞り込みと全体像の把握、言語機能の観察としてはインプットとアウトプットの掴み方、及び観察所見の書き方を学修し、後半では聴覚系、高次脳機能系、言語発達系、運動系の各系ごとの言語病理学的な診断について学んでいく。									
到達目標	言語聴覚士が患者様と相対したときの基本的観察点を身に付け、所見報告ができること、また障害の鑑別と適切な検査の選定が可能となることを目標とする。									
学修者への期待等	基礎知識を基に、障害に応じて評価を行い、適切に検査を選定、実施できるようになることを期待する。									
回	授業計画				準備学修			担当		
1	評価・診断の基本概念 言語聴覚障害を診るとは				【事後】講義内容について30分間教科書を読んでおくこと			櫻庭ゆかり		
2	評価の技法 面接法 観察法 質問紙法 検査法 機器を用いた測定				【事後】講義内容について30分間復習すること			櫻庭ゆかり		
3	臨床データの解釈 信頼と妥当性 数値化と尺度水準 データの特性と解釈①				【事後】講義内容について30分間復習すること			櫻庭ゆかり		
4	臨床データの解釈 信頼と妥当性 数値化と尺度水準 データの特性と解釈②				【事後】講義内容について30分間復習すること			櫻庭ゆかり		
5	評価・診断の流れ 観察法・質問紙法・検査法・機器を用いた検査 評価プランの立て方				【事後】講義内容について30分間復習すること			櫻庭ゆかり		
6	スクリーニング 成人の言語聴覚障害のスクリーニング				【事後】講義内容について30分間復習すること			櫻庭ゆかり		
7	具体的診断の技術②：失語症以外の言語障害と認知症の鑑別のポイント				【事後】講義内容について30分間復習すること			櫻庭ゆかり		
8	具体的診断の技術（4）：事例による演習と総括				【事後】講義内容について1時間復習すること			櫻庭ゆかり		
9	成人領域の摂食嚥下機能障害の評価 ① 医学的評価（呼吸・循環・理学所見など）				【事前】摂食嚥下障害での講義資料を予習しておくこと（1時間）			渡邊 弘人		
10	成人領域の摂食嚥下機能障害の評価/診断 ② VF読影（グループワーク）				【事後】講義の復習をしておくこと（1時間）			渡邊 弘人		
11	成人領域の摂食嚥下障害の評価/診断 ③ VE読影（グループワーク）				【事後】講義の復習をしておくこと（1時間）			江畑 綾		
12	言語発達障害児に関する評価				【事後】講義の復習をしておくこと（1時間）			江畑 綾		
13	言語発達障害児に関する評価・分析				【事後】講義の復習をしておくこと（1時間）			江畑 綾		
14	聴覚系の評価 ①（グループワーク）				【事後】講義内容を復習すること（1時間）			江畑 綾		
15	聴覚系の評価 ②（グループワーク）				【事後】講義内容を復習すること（1時間）			江畑 綾		
教科書	言語聴覚士国家試験必修ポイント 2024 専門科目 言語聴覚士国家試験必修ポイント 2024 言語聴覚士国家試験 必須ポイント2024 ST専門基礎科目」医歯薬出版									
参考文献										
備考	課題についてのフィードバックは、次回講義時、またはそれまでに口頭やレポートに記載する形で行う。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

言語聴覚士として20年以上の臨床経験あり。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	ST-2-LDS-05				
		●	●	●						
科目名	拡大・代替コミュニケーション				単位 認定者	江畑 綾 寺本 淳志		評価の 方法	試験(筆記)	50 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	2年	開講時期	前期	単位数	1 単位		授業内課題等	30 %
					授業形態	講義	授業時間数		30 時間	受講態度
							授業回数		15 回	
授業の概要	拡大・代替コミュニケーション(AAC)とは、話すこと・聞くこと・読むこと・書くことなどのコミュニケーションに障害のある人が、言語・非言語問わない残存能力とテクノロジーの活用によって、自分の意思を相手に伝える技法のことを指し、大きく分けてノンテク、ローテク、ハイテクの3つがある。本講義では、拡大・代替コミュニケーションの概要を学び、言語聴覚士として適応の判断と提案、活用の支援に至るまでの能力を身につける。									
到達目標	AACの基本的な考え方を理解し、その適用方法について実践事例を通して理解を深める。パソコン教材等の作成やローテク、ハイテクなツールの実演を通して、具体的な支援の在り方について知る。									
学修者への期待等	事前に各回のトピックに関する参考文献などを読んで学習しておくこと。授業後は配付資料やノートにより講義で得た知識の確認をすること。また、授業で示された補足資料等に目を通し学びを深めること。									
回	授業計画				準備学修				担当	
1	コミュニケーションの困難とAACの役割について				配付資料やノート、紹介された補足資料等で予習・復習すること(概ね1時間)				寺本 淳志	
2	AACの定義と変遷				配付資料やノート、紹介された補足資料等で予習・復習すること(概ね1時間)				寺本 淳志	
3	AACの対象及びAACシステムの概要				配付資料やノート、紹介された補足資料等で予習・復習すること(概ね1時間)				寺本 淳志	
4	AACシステムの構成要素1：形式				配付資料やノート、紹介された補足資料等で予習・復習すること(概ね1時間)				寺本 淳志	
5	AACシステムの構成要素2：シンボル				配付資料やノート、紹介された補足資料等で予習・復習すること(概ね1時間)				寺本 淳志	
6	AACシステムの構成要素3：選択手法				配付資料やノート、紹介された補足資料等で予習・復習すること(概ね1時間)				寺本 淳志	
7	AACシステムの構成要素4：方略				配付資料やノート、紹介された補足資料等で予習・復習すること(概ね1時間)				寺本 淳志	
8	ノンテク/ローテク/ハイテクコミュニケーション：技法やツールの紹介				配付資料やノート、紹介された補足資料等で予習・復習すること(概ね1時間)				寺本 淳志	
9	各種コミュニケーション方法の適用事例の紹介				配付資料やノート、紹介された補足資料等で予習・復習すること(概ね1時間)				寺本 淳志	
10	ノンテク/ローテク・コミュニケーションに関する演習				演習に向けて、補足資料等を基に介入のイメージを掴んで授業に臨むこと。(概ね1時間)				寺本 淳志	
11	ハイテク・コミュニケーションに関する演習とコミュニケーションソフト作成体験				演習に向けて、補足資料等を基に介入のイメージを掴んでおくこと。また、事前にPowerPointの基本的な使用方法を確認しておくこと。(概ね1時間)				寺本 淳志	
12	コミュニケーションソフト作成体験				発表や演習に向けて教材作成に取り組み、使用のイメージを掴んでおくこと。(概ね1時間)				寺本 淳志	
13	コミュニケーションソフトの発表とディスカッション				発表や演習に向けて教材作成に取り組み、使用のイメージを掴んでおくこと。(概ね1時間)				江畑 綾	
14	成人領域のツールの紹介、STによるAAC導入調整について(AAC導入のために行う評価)				配布資料を復習しておくこと。(概ね1時間)				寺本 淳志	
15	症例検討(グループワーク)				事前に配布資料を復習すること。基礎知識を基に患者像を描けるように学習すること(1時間)				江畑 綾	
教科書	なし									
参考文献	『言語聴覚療法シリーズ16 改訂 AAC』久保健彦 編著(2012) 建帛社 『言語聴覚士のためのAAC入門』知念洋美 編著(2018) 協同医書出版社									
備考										

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	ST-2-CLT-02				
		●	●	●						
科目名	臨床実習Ⅱ（評価実習）				単位認定者	櫻庭 ゆかり 渡邊弘人 中川 大介 鈴木 将太 江畑 綾 木村 有希		実習先評価： 知識・人物・適正	50 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	2年	開講時期	後期	単位数	3 単位	評価の方法	学内評価： 準備・報告書等	50 %
				授業形態	実習	授業時間数	135 時間			
						授業回数	- 回			
授業の概要	<p>学生が医療チームの一員として臨床場面に参加しながら言語聴覚療法を経験し、評価のための技能と考察する能力を向上させることを目的とする。対象者の全体像把握のため、臨床実習指導者の指導のもと検査を実施し、問題点の抽出、治療プログラムの立案及び治療目標の設定ができるよう学修する。実習中の個人面談を通して、臨床実習指導者からのフィードバックと学生自身の評価から今後の課題と目標を考察する。さらには実習後の症例報告書の作成と報告会を通して臨床現場で身につけた知識の習熟を図っていく。</p>									
到達目標	適切な検査法を選択・実施し、総合的な評価ができる。さらに評価内容をまとめ、的確に説明することができる。									
学修者への期待等	自らの足りないところを明確にし、次の努力目標としてほしい。									
授業計画										
<p>1. 実習期間 1単位 45時間 実習時期 1月4週～2月3週の間で3週</p> <p>2. 実習の目的 学生が医療チームの一員として臨床場面に参加しながら言語聴覚療法を経験し、評価のための技能及び考察能力を向上させる。</p> <p>3. 実習の目標（ねらい） 1) 治療プログラムの立案ができる。 2) 治療目標の設定ができる。 3) 言語病理学的診断を行い、問題点を抽出できる。</p> <p>4. 実習計画 オリエンテーション 実習前8時間 実習後7時間 計15時間 1) 実習施設は言語聴覚士が治療業務に従事している医療機関、社会福祉施設とする。 2) 実習時間は従事する言語聴覚士の勤務時間に順じ、1日を8時間とする。 3) 実習施設でのオリエンテーションや言語聴覚士の臨床活動を見学する。 4) 指導者の指導のもと、標準的な失語症検査あるいは構音検査を選択し実施する。 5) 長期目標の設定を行い、その根拠を考察する。 6) 毎日の実習日誌と指導者からの課題を提出し、指導を受ける。 7) 実習期間終了後、実習報告書を提出する。</p>										
教科書	特に指定しない。									
参考文献	適宜紹介する									
備考	外部実習のフィードは実習終了後、口頭および書面にて学内実習の中で実施する。内部実習については、その都度口頭・書面にてフィードバックを行う。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

言語聴覚士として20年以上の臨床経験あり。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	ST-3-SOC-08				
		●		●						
科目名	口腔衛生論				単位 認定者	江畑 綾 中川 大介 花淵 静		試験(筆記)	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	選択	2年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	受講態度	30 %
						授業時間数	30 時間			
				授業形態	講義	授業回数	15 回			
授業の概要	口腔の運動能力が低下している対象者は口腔衛生に大きな問題を抱える場合が多い。本講義では、生涯を通じて常在菌とのより良い共生関係を維持し健康に寿命を全うするために、口腔内の衛生状態と健康の関係について、さまざまなデータを通して知識を得る。さらにはその具体的な対策として、口腔ケアの演習を行う。口腔の感覚・運動機能の維持向上を担当する言語聴覚士が、口腔ケアの側面から知識と技術を持つことは重要である。医歯連携による口腔衛生の一翼を担う専門職として、その基礎を学ぶ。									
到達目標	言語聴覚士として、口腔衛生と健康の関係性や口腔清掃の目的を理解する。その知識をもとに評価を行い適切に対応ができるようになる。									
学修者への期待等	口腔内環境を整えることや医歯連携の重要性を理解し、患者に合わせて口腔ケア、対応できるようになることを期待する。									
回	授業計画				準備学修			担当		
1	口腔衛生学の定義、口腔保健について 口腔の機能(解剖、生理学)				【事後】配布資料を復習すること (約60分)			江畑 綾		
2	口腔環境(唾液の作用、歯・口腔の付着物・沈着物)成人・高齢者の歯科保健				【事後】配布資料を復習すること (約60分)			江畑 綾		
3	全身状態との関連性(呼吸器感染症、心血管性疾患との関連性)				【事後】配布資料を復習すること (約60分)			江畑 綾		
4	成人の口腔機能評価・口腔清掃				【事後】配布資料を復習すること (約60分)			江畑 綾		
5	機能的口腔ケアとは				【事後】配布資料を復習すること (約60分)			江畑 綾		
6	機能的口腔ケア(筋刺激法)				【事後】配布資料を復習すること (約60分)			江畑 綾		
7	口腔の発育・発達と機能				【事後】配布資料を復習すること (約60分)			中川 大介		
8	小児の口腔評価・口腔清掃				【事後】配布資料を復習すること (約60分)			中川 大介		
9	乳幼児と口腔衛生(乳児の歯と口腔の疾病・異常)				【事後】配布資料を復習すること (約60分)			中川 大介		
10	学齢期の歯科疾患の現状と動向、学校保健に関係する人々				【事後】配布資料を復習すること (約60分)			中川 大介		
11	障がい者の口腔衛生				【事後】配布資料を復習すること (約60分)			中川 大介		
12	各種口腔清掃用品(歯ブラシ/フロス/歯間ブラシ) 基礎知識 口腔清掃自習法				【事前】現在使用している口腔清掃用品の種類、購入理由などを調べておくこと(30分) 【事後】配布資料を復習すること(50分)			花淵 静		
13	特殊口腔清掃用品(舌ブラシ/タフトブラシ/スポンジブラシ)基礎知識 口腔清掃自習法							花淵 静		
14	口腔ケア演習(1)				【事前】シラバス12回目・13回目の授業プリントおよび各種口腔清掃用品の操作方法について復習しておくこと(30分) 【事後】配布資料を復習すること(40分)			花淵 静		
15	口腔ケア演習(2)							花淵 静		
教科書	教科書の指定は無し 配布資料、授業内で紹介する									
参考文献	『口腔衛生学 2020』松久保 隆・八重垣 健他監修 一世出版 『最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論』全国歯科衛生士教育協議会監修 高阪利美著 合場千佳子編 医歯薬出版株式会社 『最新歯科衛生士教本 歯科材料』全国歯科衛生士教育協議会著、編集 医歯薬出版株式会社									
備考	シラバス12・13回目、シラバス14回目・15回目を連続授業とし、8階歯科演習室使用する									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

言語聴覚士として、臨床にて15年以上の経験あり。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	ST-3-SOC-11			
		●		●					
科目名	保険診療・介護保険制度				単位認定者	櫻庭 ゆかり 渡邊 弘人 木村 有希 江畑 綾 佐々木 仁		試験(筆記)	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	選択	2年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	
					授業形態	講義	授業時間数		30 時間
				授業回数		15 回			
授業の概要	日本の国民皆保険制度を維持する仕組みの中で重要な位置を占める診療報酬制度から、リハビリテーションの経済的側面について学ぶ。さらに、要介護・要支援に対する介護保険、児童福祉法を根拠法とした小児慢性特定疾病対策による医療費助成制度、難病法による難病医療費助成制度についても学び、対象者を支える制度への理解を深める。								
到達目標	① 言語聴覚士が病院経営にどのように貢献しているかを理解し、業務へのやりがいを見出す。 ② 医療費のしくみ理解することにより、患者様に寄り添った対応につなげる。 ③ 暮らしに役立つ医療費のしくみと保険制度への理解。								
学修者への期待等	国試のためだけでなく、理解することで自分の暮らしを豊かにする知識も含まれています。自分が患者様やそのご家族になった場面をイメージしながら受講してください。								
回	授業計画				準備学修			担当	
1	障害者総合福祉法による自律支援給付と地域生活支援事業について 適宜グループワーク実施				【事前】テキストの関連ページを読むこと(概ね90分)			渡邊 弘人	
2	身体障害者福祉法による身体障害者手帳、身体障害者更生相談所の支援について 適宜グループワーク実施				【事前】テキストの関連ページを読むこと(概ね90分)			渡邊 弘人	
3	地域生活支援 【生活期リハビリテーションと地域生活支援】				【事後】テキストの関連ページ、配布資料を読むこと(概ね60分)			江畑 綾	
4	慢性疾患・難病患者における支援 【リハビリテーション、難病医療費助成制度 など】				【事後】テキストの関連ページ、配布資料を読むこと(概ね60分)			江畑 綾	
5	地域包括ケアシステムと在宅医療				【事後】テキストの関連ページ、配布資料を読むこと(概ね60分)			江畑 綾	
6	高齢者の地域生活支援(1) 【介護、施設サービスなど】				【事後】テキスト、配布資料を復習すること(概ね60分)			木村 有希	
7	高齢者の地域生活支援(2) 【訪問リハビリテーション、通所リハビリテーション など】				【事後】テキスト、配布資料を復習すること(概ね60分)			木村 有希	
8	小児慢性特定疾病対策による医療費助成制度				【事後】テキスト、配布資料を復習すること(概ね60分)			木村 有希	
9	介護保険の基本				【事前】テキストの関連ページを読むこと(概ね30分)			佐々木 仁	
10	介護保険のしくみ				【事前】テキストの関連ページを読むこと(概ね30分)			佐々木 仁	
11	介護保険のスタッフと事業所				【事前】テキストの関連ページを読むこと(概ね30分)			櫻庭 ゆかり	
12	1. 医療費のしくみと診療報酬制度 2. 言語聴覚士の業務と診療報酬				【事後】配布資料を復習すること(概ね30分)			佐々木 仁	
13	3. 診療報酬の改定と医療機関の経営 4. 医療機関による医療費の違い				【事後】配布資料を復習すること(概ね30分)			櫻庭 ゆかり	
14	5. 医療保険の種類と医療費 6. 高額療養制度と保険外併用療養費				【事後】配布資料を復習すること(概ね30分)			佐々木 仁	
15	7. 公費負担医療制度 8. 介護保険制度				【事後】配布資料を復習すること(概ね30分)			櫻庭 ゆかり	
教科書	『世界一わかりやすい介護保険のきほんとしくみ 2021-2024年度版』イノウ著 ソシム								
参考文献									
備考									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

言語聴覚士として20年以上の臨床経験あり。

2024年度 言語聴覚学科3年生 年間予定表

前期

	日	月	火	水	木	金	土
4月		1	2	3 入学式	4	5 健康診断	6
	7	8	9	10	11	12	13
	14	15	16	17	18 合同体育祭	19	20
	21	22	23	24	25 実習指導	26 実習指導	27
	28	29 昭和の日	30 実習指導	1 実習指導	2 実習指導	3 憲法記念日	4 みどりの日
5月	5 こどもの日	6 振替休日	7 実習指導	8 実習指導	9 実習指導	10 実習指導	11
	12	13	14	15 臨床実習Ⅲ	16 臨床実習Ⅲ	17 臨床実習Ⅲ	18
	19	20 臨床実習Ⅲ	21 臨床実習Ⅲ	22 臨床実習Ⅲ	23 臨床実習Ⅲ	24 臨床実習Ⅲ	25
	26	27 臨床実習Ⅲ	28 臨床実習Ⅲ	29 臨床実習Ⅲ	30 臨床実習Ⅲ	31 臨床実習Ⅲ	1
6月	2	3 臨床実習Ⅲ	4 臨床実習Ⅲ	5 臨床実習Ⅲ	6 臨床実習Ⅲ	7 臨床実習Ⅲ	8
	9	10 臨床実習Ⅲ	11 臨床実習Ⅲ	12	13	14	15
	16	17	18	19	20	21	22
	23	24	25	26 臨床実習Ⅳ	27 臨床実習Ⅳ	28 臨床実習Ⅳ	29
	30	1 臨床実習Ⅳ	2 臨床実習Ⅳ	3 臨床実習Ⅳ	4 臨床実習Ⅳ	5 臨床実習Ⅳ	6
7月	7	8 臨床実習Ⅳ	9 臨床実習Ⅳ	10 臨床実習Ⅳ	11 臨床実習Ⅳ	12 臨床実習Ⅳ	13
	14	15 海の日	16 臨床実習Ⅳ	17 臨床実習Ⅳ	18 臨床実習Ⅳ	19 臨床実習Ⅳ	20
	21	22 臨床実習Ⅳ	23 臨床実習Ⅳ	24 臨床実習Ⅳ	25	26	27
	28	29 実習指導	30	31	1	2 実習指導	3
8月	4	5 実習指導	6 実習指導	7	8	9	10
	11 山の日	12 振替休日	13	14	15	16	17
	18	19	20	21	22	23	24
	25	26	27	28	29	30	31
9月	1	2	3	4	5	6	7
	8	9	10	11	12	13	14
	15	16 敬老の日	17	18	19	20	21
	22 秋分の日	23 振替休日	24	25	26	27	28
	29	30					

※振替授業日については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。

※追試験の日程については、別途、掲示にて確認してください。

※再試験の日程については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。

2024年度 言語聴覚学科3年生 年間予定表

後期

		日	月	火	水	木	金	土
10月				1	2	3	4	5
	6	7	8	9	10	11	12	
	13	14 スポーツの日	15	16	17	18	19	
	20	21	22	23	24	25	26 せいよう祭	
	27	28	29	30	31	1	2	
11月	3 文化の日	4 振替休日	5	6	7	8	9	
	10	11	12	13	14	15	16	
	17	18	19	20	21	22	23	
	24	25	26	27	28	29	30	
12月	1	2	3	4	5	6	7	
	8	9	10	11	12	13	14	
	15	16	17	18 定期試験	19 定期試験	20 定期試験	21	
	22	23 定期試験	24 定期試験	25 追試験	26 追試験	27	28	
	29	30	31	1	2	3	4	
1月	5	6	7	8	9 不合格者発表	10	11	
	12	13 成人の日	14	15	16 再試験	17 再試験	18	
	19	20	21	22	23	24	25	
	26	27	28	29	30	31	1	
2月	2	3	4	5	6	7	8	
	9	10	11 建国記念日	12	13	14	15	
	16	17	18	19	20	21	22	
	23 天皇誕生日	24 振替休日	25	26	27	28	1	
3月	2	3	4	5	6	7	8	
	9	10	11	12	13	14	15	
	16	17	18 卒業式	19	20 春分の日	21	22	
	23	24	25	26	27	28	29	
	30	31						

※振替授業日については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。
 ※追試験の日程については、別途、掲示にて確認してください。
 ※再試験の日程については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	ST-1-PCL-07				
		●		●						
科目名	心理学系総論				単位 認定者	渡邊 弘人 木村 有希		試験（筆記）	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	3年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	小テスト （中間）	30 %
					授業形態	講義	授業時間数		30 時間	
				授業回数		15 回				
授業の概要	心理学は行動と心的処理過程の科学である。我々の行動と心的世界は極めて多様であるために心理学の領域も広汎であり、多くのアプローチが存在する。言語聴覚士は心理的な葛藤や、脳損傷による知覚・認知・学習の困難、発達に問題を抱えるさまざまな年齢層の人々を担当する職業であることから、心理学の素養が欠かせない。生涯発達心理学や臨床心理学をはじめ、福祉心理学、高次脳機能の基盤となる脳の領域に踏み込んだ神経心理学、知覚、学習と記憶、思考、理解等を研究する認知心理学、さらには心理現象を把握するために用いる統計的な研究手法を学ぶ心理測定法など、これまで学んできた心理学を包括的に概観し、それぞれのポイントと相互関連性について学修する。									
到達目標	心理学は多岐にわたる領域である。特に言語聴覚士が理解しておかなければならない生涯発達心理学、認知学習心理学、聴覚心理学、心理測定法などについて再度確認し、学修を深める。									
学修者への期待等	国家試験にも出題される重要な分野であるため、1,2年生で学んだ本領域の知識を再確認し、理解を深めてほしい。									
回	授業計画				準備学修			担当		
1	認知学習心理学① 古典的条件付けと道具的条件付け 適宜ディスカッションを行う				関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分			渡邊 弘人		
2	認知学習心理学② 学習と思考 適宜ディスカッションを行う				関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分			渡邊 弘人		
3	認知学習心理学③ 知覚 適宜ディスカッションを行う				関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分			渡邊 弘人		
4	認知学習心理学④ 記憶 適宜ディスカッションを行う				関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分			渡邊 弘人		
5	聴覚心理学① 音の心理学単位 適宜ディスカッションを行う				関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分			渡邊 弘人		
6	聴覚心理学② 音の心理的現象 適宜ディスカッションを行う				関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分			渡邊 弘人		
7	生涯発達心理学① 研究法 グループワーク・ディスカッション				国家試験過去問題を復習すること。 約60分			木村 有希		
8	心理測定法① 測定法 適宜ディスカッションを行う				関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分			渡邊 弘人		
9	生涯発達心理学② 研究法と新生児期 グループワーク・ディスカッション				国家試験過去問題を復習すること。 約60分			木村 有希		
10	心理測定法② 尺度 適宜ディスカッションを行う				関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分			渡邊 弘人		
11	生涯発達心理学③ 幼児期・児童期 グループワーク・ディスカッション				国家試験過去問題を復習すること。 約60分			木村 有希		
12	生涯発達心理学④ 青年期から老年期 グループワーク・ディスカッション				国家試験過去問題を復習すること。 約60分			木村 有希		
13	臨床心理学① 心理検査 グループワーク・ディスカッション				国家試験過去問題を復習すること。 約60分			木村 有希		
14	臨床心理学② 行動療法・認知行動療法 グループワーク・ディスカッション				国家試験過去問題を復習すること。 約60分			木村 有希		
15	臨床心理学③ 心理療法 グループワーク・ディスカッション				国家試験過去問題を復習すること。 約60分			木村 有希		
教科書	『最新版 言語聴覚士国家試験過去3年分の問題と解説』言語聴覚士国家試験対策委員会 大揚社 『言語聴覚士国家試験 必須ポイント2024 ST専門科目』医歯薬出版 『言語聴覚士国家試験 必須ポイント2024 ST専門基礎科目』医歯薬出版									
参考文献										
備考	課題についてのフィードバックは、次回講義時、またはそれまでに口頭やレポートに記載する形で行う。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

言語聴覚士として、臨床に5年以上の経験あり。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	ST-2-LSG-04			
		●		●					
科目名	言語聴覚障害学臨床応用				単位認定者	櫻庭 ゆかり 渡邊 弘人 鈴木 将太		試験（筆記）	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	3年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	
					授業形態	講義	授業時間数		30 時間
				授業回数		15 回			
授業の概要	実習を経て訓練の実際を体験した3年次において、その経験を基礎とし、各言語聴覚障害及び摂食嚥下障害の特徴と、訓練に必要な知識を総括する。本講義では、高次脳機能障害（失語症を含む）や言語発達遅滞、発声発語障害などの言語病理学的な症状や摂食嚥下障害について、対応し得る訓練法の名称と意義、実施方法の理論的根拠及び的確に実施するための知識と手技をとらえ直す。								
到達目標	臨床実習で経験したりハビリテーション方法について、各専門領域ごと訓練法の知識と結び付け、理解を深める。								
学修者への期待等	臨床実習で学んだことを醸成するためには、積極的に学ぶ姿勢が大切である。国家試験にも関連する内容のため欠席せずに受講してもらいたい。								
回	授業計画				準備学修			担当	
1	発声発語器官の解剖				関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分			櫻庭 ゆかり	
2	発声発語器官の神経				関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分			櫻庭 ゆかり	
3	発声発語器官の感覚				関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分			櫻庭 ゆかり	
4	発声発語器官の感覚・運動障害				関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分			櫻庭 ゆかり	
5	聴覚補償機器① 補聴器 適宜ディスカッションを行う				関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分			渡邊 弘人	
6	発声発語器官の運動障害				関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分			櫻庭 ゆかり	
7	聴覚補償機器② 人工内耳 適宜ディスカッションを行う				関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分			渡邊 弘人	
8	脳機能 局在、側性化				関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分			鈴木 将太	
9	失語症 症状、タイプ分類				関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分			鈴木 将太	
10	言語機能 評価、分析、検査、訓練				関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分			鈴木 将太	
11	高次脳機能障害① 病巣、症状				関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分			鈴木 将太	
12	高次脳機能障② 評価、分析、検査、訓練				関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分			鈴木 将太	
13	小児の発達 言語機能、運動、心理				関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分			鈴木 将太	
14	言語発達遅滞① 疾病分類、病態				関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分			鈴木 将太	
15	言語発達遅滞② 評価、分析、検査、訓練				関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分			鈴木 将太	
教科書	なし								
参考文献	『最新版 言語聴覚士国家試験過去3年分の問題と解説』 言語聴覚士国家試験対策委員会 編 大揚社								
備考									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

言語聴覚士として、臨床に5年以上の経験あり。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	ST-2-CLT-03				
		●	●	●						
科目名	臨床実習Ⅲ（総合実習前期）				単位認定者	櫻庭 ゆかり 渡邊弘人 中川 大介 鈴木 将太 江畑 綾 木村 有希		実習先評価： 知識・人物・適正	50 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	3年	開講時期	通年	単位数	4 単位	評価の方法	学内評価： 準備・報告書等	50 %
					授業形態	実習	授業時間数		180 時間	
				授業回数		- 回				
授業の概要	診療参加型によって言語聴覚療法技能の向上を目指す。臨床実習指導者の指導のもと、対象者への評価の実施から評価結果に対するアセスメント、問題点の抽出、治療目標の設定と治療プログラム立案、治療の実施から効果判定までの臨床過程を経験する。実習中の個人面談を通して、臨床実習指導者からのフィードバックと学生自身の評価から、今後の課題と目標を考察する。									
到達目標	指導者の指導の下、評価（方法の選択、問題点抽出など）、目標設定、訓練（プログラムの立案、プログラムの実施、介入考察）を実施できること									
学修者への期待等	言語聴覚士の臨床活動を通して、自身の足りない点を含め、自らと向き合ってもらいたい。そのうえで、今後の学修における努力目標を明確にできることを期待する。									
授業計画										
<p>1. 実習期間 4単位 180時間 実習時期 5月3週～6月4週の間で4週</p> <p>2. 実習の目的 診療参加型によって言語聴覚療法技能の向上を目指す。対象者への評価の実施から評価結果に対するアセスメント、治療の実施から効果判定までの臨床課程を経験する。</p> <p>3. 実習の目標（ねらい） 1) 臨床実習指導者の指導のもと、評価方法を選択し、実施できる。 2) 問題点を抽出し、ICFに基づいて整理できる。 3) 長期目標、短期目標の設定及び訓練プログラムの立案ができる。 4) 臨床実習指導者の指導のもと、治療プログラムを実施することができる。 5) 治療プログラムの妥当性や症例の全体像、一連の言語聴覚療法介入に関する考察をまとめることができる。</p> <p>4. 実習計画 オリエンテーション 実習前25時間 1) 実習施設は言語聴覚士が治療業務に従事している医療機関とする。 2) 実習時間は従事する言語聴覚士の勤務時間に順じ、1日を8時間とする。 3) 実習施設でのオリエンテーションや言語聴覚士の臨床活動を見学する。 4) 指導者の指導のもと、標準的な失語症検査あるいは構音検査などを選択し実施する。 5) 短期目標、長期目標の設定を行い、その根拠を考察する。 6) 指導者の指導のもと、治療プログラムを立案し、実施する。 7) 言語聴覚療法介入に関して考察する。 8) 毎日の実習日誌と指導者からの課題を提出し、指導を受ける。 9) 実習期間終了後、実習報告書を提出する。</p>										
教科書	特に設定しない。									
参考文献	適宜紹介する。									
備考	外部実習のフィードは実習終了後、口頭および書面にて学内実習の中で実施する。内部実習については、その都度口頭・書面にてフィードバックを行う。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

言語聴覚士として20年以上の臨床経験あり。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	ST-2-CLT-04				
		●	●	●						
科目名	臨床実習Ⅳ（総合実習後期）				単位認定者	櫻庭 ゆかり 渡邊弘人 中川 大介 鈴木 将太 江畑 綾 木村 有希		臨床実習施設 評価	50 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	3年	開講時期	通年	単位数	4 単位	評価の方法	学内評価	50 %
					授業形態	実習	授業時間数		180 時間	
							授業回数		- 回	
授業の概要	「臨床実習Ⅲ（総合実習前期）」の内容をふまえ、診療参加型による言語聴覚療法技能の向上を目指す。臨床実習指導者の指導のもと、対象者に一連の言語聴覚療法を提供しながら、臨床現場における言語聴覚士の役割と責任について理解し、チームの一員としての自覚を持って行動できるようになることを目標とする。実習中の個人面談を通して、臨床実習指導者からのフィードバックと学生自身の評価から、今後の課題と目標を考察する。さらには、実習後の症例報告作成と発表を通して臨床現場で身につけた知識の習熟を図っていく。									
到達目標	「臨床実習Ⅲ（総合実習前期）」の内容をふまえ、診療参加型による言語聴覚療法技能の向上を目指す。									
学修者への期待等	これまでの学修してきた内容の総括なるのが臨床実習Ⅳであるため、一つ一つの事柄に真摯に向き合い、自身の課題を見つけてもらいたい。									
授業計画										
<p>1. 実習期間 4単位 180時間 実習時期 6月5週～7月5週の間で4週</p> <p>2. 実習の目的 「臨床実習Ⅲ（総合実習前期）」の内容をふまえ、診療参加型による言語聴覚療法技能の向上をめざす。実習後、症例報告作成及び発表を通じて、臨床現場で身につけた知識の習熟を図る。</p> <p>3. 実習の目標（ねらい） 1) 臨床実習指導者の指導のもと、再評価を行うことができる。 2) 症例再評価をもとに、チームアプローチ、予後予測、転帰に絡めた支援の方法などを考察できる。 3) 臨床現場における言語聴覚士の役割と責任について理解し、チームの一員としての自覚を持って行動できるようになる。</p> <p>4. 実習計画 オリエンテーション 実習後15時間 1) 実習施設は言語聴覚士が治療業務に従事している医療機関とする。 2) 実習時間は従事する言語聴覚士の勤務時間に順じ、1日を8時間とする。 3) 実習施設でのオリエンテーションや言語聴覚士の臨床活動を見学する。 4) 指導者の指導のもと、標準的な失語症検査あるいは構音検査などを選択し実施する。 5) 短期目標、長期目標の設定を行い、その根拠を考察する。 6) 指導者の指導のもと、治療プログラムを立案し、実施する。 7) 言語聴覚療法介入に関して考察する。 8) 再評価と再評価の考察を実施する。 9) 再評価の結果を踏まえて、治療プログラムを見直す。 10) 毎日の実習日誌と指導者からの課題を提出し、指導を受ける。 11) 実習期間終了後、臨床実習Ⅲまたは臨床実習Ⅳでの症例を選択し、実習報告書を作成し、提出する。</p>										
教科書	使用しない									
参考文献	適宜紹介する									
備考	外部実習のフィードは実習終了後、口頭および書面にて学内実習の中で実施する。内部実習については、その都度口頭・書面にてフィードバックを行う。									

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

言語聴覚士として20年以上の臨床経験あり。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング		
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	ST-3-SOC-02		
		●	●	●				
科目名	生命科学の基礎				単位認定者	渡邊 弘人 中村 裕子	木村 有希 裕子	試験(筆記) 70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	3年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法 小テスト(中間) 30 %
				授業形態	講義	授業時間数	30 時間	
						授業回数	15 回	
授業の概要	生命科学とは、生命の営みを細胞・分子といったレベルで研究し、人の暮らしに役立てようとする学際的、応用的な学問で、近年、発展が目覚ましい。中でも生命に関する分野は、再生医療や遺伝子治療などリハビリテーション医療に従事する者として知っておくべき内容が含まれる。本講義では、最新の医療情報を理解する基礎を養成することを目的に、すでに学んだ細胞と神経、遺伝、代謝、免疫に関し、応用的に理解を深める。さらには生命を対象とする学問には欠かせない倫理学も併せて学修する。							
到達目標	言語聴覚士として臨床にあたる上で、医療・福祉専門職として担う責任と覚悟を学ぶ。さらに患者様へ示す尊厳の一つである「リハビリテーションのエビデンス」について、生命科学の基礎とむずびつけながら学修する							
学修者への期待等	臨床家として患者様に対峙する上で大変重要な内容となる。特に生命倫理、職業倫理は、人が人を診るということ深く考えなければならない。欠席せずしっかり受講してもらいたい。							
回	授業計画			準備学修			担当	
1	細胞について、その構成と役割、エネルギー産生の仕組み(適宜ディスカッションを行う。)			関連領域の講義を復習すること。(120分)			渡邊 弘人	
2	細胞の働きを支える循環器系の構成とその役割について(適宜ディスカッションを行う。)			関連領域の講義を復習すること。(120分)			渡邊 弘人	
3	身体の防衛を担う免疫系について、その構成と役割(適宜ディスカッションを行う。)			関連領域の講義を復習すること。(120分)			渡邊 弘人	
4	生命倫理、臨床倫理の視点、職業倫理と倫理綱領 生命倫理、臨床倫理とは?言葉の障害を持つ人の尊厳を維持するにはどうするか。			講義の内容について復習をすること(60分)			中村 裕子	
5	職業倫理と倫理綱領 職業倫理と倫理綱領を「尊厳ある臨床実践」に活かすには			講義の内容について復習をすること(60分)			中村 裕子	
6	リハビリテーションの視点での神経細胞の構成と機能(適宜ディスカッションを行う。)			関連領域の講義を復習すること。(120分)			渡邊 弘人	
7	尊厳ある臨床を展開するための生命倫理学の基礎 倫理判断の方法 倫理的解決の原則			講義の内容について復習をすること(60分)			中村 裕子	
8	尊厳ある臨床を展開するための生命倫理学の応用 倫理的臨床の実践方法-実習時に経験した事例を通して学ぶ			講義の内容について復習をすること(60分)			中村 裕子	
9	身体の役割① 循環について			講義の内容について復習をすること(60分)			木村 有希	
10	言語聴覚障害に関わる神経領域①(高次脳機能障害)(適宜ディスカッションを行う。)			関連領域の講義を復習すること。(120分)			渡邊 弘人	
11	言語聴覚障害に関わる神経領域②(構音障害、嚥下系)(適宜ディスカッションを行う。)			関連領域の講義を復習すること。(120分)			渡邊 弘人	
12	身体の役割② 代謝について			講義の内容について復習をすること(60分)			木村 有希	
13	身体の役割③ 遺伝について			講義の内容について復習をすること(60分)			木村 有希	
14	再生治療の現在			講義の内容について復習をすること(60分)			木村 有希	
15	遺伝治療の現在			講義の内容について復習をすること(60分)			木村 有希	
教科書	①『標準言語聴覚障害学 言語聴覚障害学概論』藤田郁代他 編 医学書院 ②『言語聴覚障害療法シリーズ 改定 言語聴覚障害総論 I』倉内紀子 編著 建帛社							
参考文献	臨床家のための生命倫理学 中村裕子監訳 協同医書出版							
備考								

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

言語聴覚士として、臨床にて10年以上の経験あり。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	ST-3-SOC-08				
		●		●						
科目名	疾病論				単位認定者	渡邊 弘人 鈴木 将太 江畑 綾		試験（筆記）	70 %	
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	3年	開講時期	後期	単位数	1 単位	評価の方法	小テスト (中間)	30 %
					授業形態	講義	授業時間数		30 時間	
				授業回数		15 回				
授業の概要	各疾患の特徴から疾病の成り立ちや治療までをより深く理解することに重点を置く。これまで学修してきた基礎医学及び臨床医学、リハビリテーション概論、言語聴覚障害学と本講義を総合的・体系的に学ぶことにより、個々の対象者に適したリハビリテーションの選択ができる言語聴覚士を目指す。本講義では、臨床の現場で出会うことのできる循環器疾患、呼吸器疾患、消化器疾患、腎・泌尿器疾患、内分泌・代謝疾患、中枢・末梢神経疾患、自己免疫疾患について、言語聴覚士がリハビリテーションを行う際に考慮すべき事柄、さらには支援について考える。									
到達目標	各種疾患と言語聴覚障害との関係を明確にし、理解を深める									
学修者への期待等	言語聴覚士が対峙する患者、利用者は少なからず合併症を有している。時には合併症がリハビリテーションに影響することもあるため、臨床で大変重要な知識である。ぜひ積極的を受講してもらいたい。									
回	授業計画				準備学修			担当		
1	腎臓、泌尿器の解剖生理とその疾患、症状 適宜ディスカッションを行う				関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分			渡邊 弘人		
2	内分泌・代謝疾患の解剖生理とその疾患、症状 適宜ディスカッションを行う				関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分			渡邊 弘人		
3	自己免疫疾患の解剖生理とその疾患、症状 適宜ディスカッションを行う				関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分			渡邊 弘人		
4	循環器疾患の解剖生理とその疾患、症状 適宜ディスカッションを行う				関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分			渡邊 弘人		
5	言語聴覚障害と各種内科的疾患の関係 適宜ディスカッションを行う				関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分			渡邊 弘人		
6	神経系の解剖・生理、神経学的検査				関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分			鈴木 将太		
7	神経症候学（意識、脳神経系、運動系、感覚系、反射、髄膜刺激症候）				関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分			鈴木 将太		
8	臨床神経学各論1 脳血管障害、頭部外傷、脳腫瘍、中枢神経系感染症				関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分			鈴木 将太		
9	臨床神経学各論2 神経変性疾患、認知症、水頭症、脱髄疾患				関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分			鈴木 将太		
10	循環器疾患① 心疾患について 適宜ディスカッションを行う				関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分			江畑 綾		
11	臨床神経学各論3 末梢神経障害、筋疾患および神経筋接合部疾患、代謝性疾患、その他疾患				関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分			鈴木 将太		
12	循環器疾患② 脳血管疾患について 適宜ディスカッションを行う				関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分			江畑 綾		
13	呼吸器疾患① 肺がん COPD 肺炎 など 適宜ディスカッションを行う				関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分			江畑 綾		
14	呼吸器疾患② 呼吸器感染症、睡眠時無呼吸症候群など 適宜ディスカッションを行う				関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分			江畑 綾		
15	消化器疾患 食道炎、胃・十二指腸潰瘍・胃炎・過敏性腸症候群				関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分			江畑 綾		
教科書	『最新版 言語聴覚士国家試験過去3年分の問題と解説』言語聴覚士国家試験対策委員会 大揚社 『言語聴覚士国家試験 必須ポイント2024 ST専門科目』医歯薬出版 『言語聴覚士国家試験 必須ポイント2024 ST専門基礎科目』医歯薬出版									
参考文献										
備考										

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

言語聴覚士として、臨床現場にて10年以上の経験あり。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング		
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	ST-3-SOC-13		
		●		●				
科目名	補綴・補装具論				単位 認定者	櫻庭 ゆかり 渡邊 弘人 木村 有希 中川 大介 高橋 慧		試験(筆記) 100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	選択	3年	開講時期	通年	単位数	1 単位	
				授業形態	講義	授業時間数	30 時間	
						授業回数	15 回	
授業の概要	本講義では、すでに各講義において触れられてきた口腔顔面の補綴や補聴器、意思伝達装置等について、補装具の観点から見つめ直す。その基本的構造と機能については領域を超えて学修し、義歯や軟口蓋挙上装置、及び各種補聴器など聴覚補償機器の意義、具体的な使用方法、適合判定について理解を深める。並びに義肢の種類と装着についての理解と使用方法を学修する。							
到達目標	各講義において触れられてきた口腔顔面の補綴や補聴器、意思伝達装置等について、補装具の観点から理解を深める。							
学修者への期待等	リハビリテーションの臨床において、補綴や補聴器、AAC、補装具は患者・利用者のQOL向上のためには大変重要な内容となる。そのため積極的な受講を望む							
回	授業計画				準備学修		担当	
1	補綴について 補綴とはなにか				関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね30分		櫻庭 ゆかり	
2	聴覚補償システム① 補聴器のフィッティング				関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分		渡邊 弘人	
3	聴覚補償システム② 各種補聴器の機能とその適応				関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分		渡邊 弘人	
4	聴覚補償システム③ 人工内耳マッピング				関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分		渡邊 弘人	
5	乳幼児の補綴・装用の必要性とは				関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね30分		木村 有希	
6	乳幼児の補綴・装用 Hotz床・スピーチエイド等				関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね30分		木村 有希	
7	補装具と構音障害				関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね30分		木村 有希	
8	義歯の適合、顔面補綴について				関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね30分		櫻庭 ゆかり	
9	顎接触補助床の装用に関する適応と装用効果				関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね30分		中川 大介	
10	額義歯・軟口蓋挙上装置など				関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね30分		櫻庭 ゆかり	
11	軟口蓋挙上装置の装用に関する適応と装用効果				関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね30分		中川 大介	
12	顎接触補助床/軟口蓋挙上装置の装用時の評価・調整				関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね30分		中川 大介	
13	義肢・装具① 基本構造・分類				関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分		高橋 慧	
14	義肢・装具② 歩行補助具、車椅子				関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分		高橋 慧	
15	義肢・装具③ 介助方法、リハビリテーション、指導				関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分		高橋 慧	
教科書	なし							
参考文献								
備考								

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

言語聴覚士として20年以上の臨床経験あり。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	ST-3-SOC-14			
	●	●	●	●	●				
科目名	言語聴覚学特別講義 I				単位 認定者	櫻庭 ゆかり 鈴木 裕一 渡邊 弘人 鈴木 將太 木村 有希 中川 大介 須賀川 芳夫		試験(筆記)	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	自由	3年	開講時期	通年	単位数	2 単位		
				授業形態	講義	授業時間数	60 時間		
						授業回数	30 回		
授業の概要	<p>言語聴覚士の仕事は、多くの基礎的分野に関する知識の上に成り立つ。本講義では、専門支持科目で学んできた内容について総合的に復習し、言語聴覚士の幅広い臨床に対応できる人材を目指す。</p> <p>専門支持科目で学修した臨床歯科医学、呼吸系の構造・機能・病態、音声学、言語学について、総合的に復習し、言語聴覚士の臨床に対応できる人材を目指す。</p>								
到達目標	専門支持科目で学んできた内容について総合的に復習し、専門展開科目とのつながりについて理解を深める								
学修者への期待等	専門支持科目を中心として言語聴覚療法を総合的に見直していく。3年間のまとめとして重要な内容となるため、積極的な受講を望む								
回	授業計画				準備学修			担当	
1	耳鼻咽喉科系疾患 適宜グループワークを実施する				関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分			鈴木 裕一	
2	言語発達(前言語期・幼児前期)のまとめ①				関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分			鈴木 裕一	
3	聴覚系の解剖生理と疾患の関係性				関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分			鈴木 裕一	
4	中枢神経系、末梢神経系の構造・機能				関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分			鈴木 裕一	
5	言語発達(前言語期・幼児前期)のまとめ②				関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分			鈴木 裕一	
6	聴覚系の解剖生理と聴覚検査				関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分			須賀川芳夫	
7	言語発達(幼児期後期)のまとめ				関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分			須賀川芳夫	
8	聴覚の心理学的現象 グループワークを実施する				関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分			渡邊 弘人	
9	中枢神経系、末梢神経系の病態、症状				関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分			鈴木 將太	
10	呼吸系の構造・機能・病態①：呼吸系の解剖				関連資料を復習すること おおむね90分			櫻庭 ゆかり	
11	聴覚検査と心理測定法の関係 グループワークを実施する				関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分			渡邊 弘人	
12	呼吸系の構造・機能・病態②：声帯と発声，検査全般				関連資料を復習すること おおむね90分			櫻庭 ゆかり	
13	基礎医学①：細胞と組織 発生 骨格筋				関連資料を復習すること おおむね90分			鈴木 裕一	
14	音声学：IPA全般				関連資料を復習すること おおむね90分			櫻庭 ゆかり	
15	音声学：スペクトログラムを読む				関連資料を復習すること おおむね90分			櫻庭 ゆかり	

回	授業計画	準備学修	担当
16	大脳の血流領域	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分	鈴木 將太
17	基礎医学②：神経系 循環器系 呼吸器系	関連資料を復習すること おおむね90分	鈴木 裕一
18	基礎医学③：消化器系 内分泌系 睡眠と脳波 まとめ	関連資料を復習すること おおむね90分	鈴木 裕一
19	生涯発達心理学（新生児、乳幼児期）	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分	中川 大介
20	生涯発達心理学（児童期、青年期、老年期）	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分	中川 大介
21	認知・学習心理学(古典的条件付け、オペラント条件付け)	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分	中川 大介
22	認知・学習心理学(視覚、記憶の効果)	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分	中川 大介
23	各種評価法（FIM, BIなど）、リハビリテーション実施上のリスク、効果判定など	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分	中川 大介
24	医学総論①：少子高齢化問題と日本人の死因と要介護の要因	関連資料を復習すること おおむね90分	鈴木 裕一
25	医学総論②：医療安全と感染予防 健康管理と予防医学	関連資料を復習すること おおむね90分	鈴木 裕一
26	言語学；言語構造、意味論など	関連資料を復習すること おおむね90分	櫻庭 ゆかり
27	言語発達(学童期期)のまとめ	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分	木村 有希
28	知的障害のまとめ	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分	木村 有希
29	音響学	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分	須賀川 芳夫
30	教育制度関連	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分	須賀川 芳夫
教科書	『言語聴覚士国家試験 必須ポイント2024 ST専門科目』医歯薬出版 『言語聴覚士国家試験 必須ポイント2024 ST専門基礎科目』医歯薬出版		
参考文献			
備考			

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

言語聴覚士として20年以上の臨床経験あり。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング			
	基礎力	実践力	人間関係力	生涯学習力	地域理解力	ST-3-SOC-15			
		●	●	●	●				
科目名	言語聴覚学特別講義Ⅱ				単位認定者	鈴木 裕一 鈴木 將太 木村 有希 中川 大介 野口 美雪 須賀川 芳夫		試験(筆記)	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	自由	3年	開講時期	通年	単位数	2 単位	評価の方法	
					授業形態	講義	授業時間数		60 時間
				授業回数		30 回			
授業の概要	言語聴覚士が担当する言語・高次脳機能障害（失語症、高次脳機能障害、言語発達障害、発声発語の障害、聴覚障害）及び摂食嚥下障害について専門展開科目を基に総合的に復習するとともに、障害の評価や訓練についてとらえ直し、見落としがちなポイントや、理解すべき事柄を整理する。より良いリハビリテーションを提供し、対象児者の全人的復権に寄与するために知識面での補完を目指す。								
到達目標	今まで学修した内容を振り返り、各科目の関係性の理解を深める。								
学修者への期待等	専門展開科目を中心として言語聴覚療法を総合的に見直していく。3年間のまとめとして重要な内容となるため、積極的な受講を望む。								
回	授業計画				準備学修			担当	
1	臨床医学① 内科診断学 循環器疾患				資料を復習すること おおむね60分			鈴木 裕一	
2	臨床医学② 呼吸器疾患 膠原病・免疫疾患				資料を復習すること おおむね60分			鈴木 裕一	
3	臨床医学③ 血液疾患 消化器疾患 内分泌疾患				資料を復習すること おおむね60分			鈴木 裕一	
4	臨床医学④ 代謝疾患 老年病学 内科学まとめ				資料を復習すること おおむね60分			鈴木 裕一	
5	運動障害性構音障害①：タイプ分類と特徴				資料を復習すること おおむね60分			須賀川 芳夫	
6	運動障害性構音障害②：タイプ分類と訓練法				資料を復習すること おおむね60分			須賀川 芳夫	
7	音声障害：タイプ分類と訓練法				資料を復習すること おおむね60分			須賀川 芳夫	
8	新生児から児童期までの聴覚発達 適宜ディスカッションを行う				関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分			須賀川 芳夫	
9	ライフステージごとの聴覚障害 適宜ディスカッションを行う				関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分			須賀川 芳夫	
10	ライフステージごとの聴覚障害への対応 適宜ディスカッションを行う				関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分			須賀川 芳夫	
11	高次脳機能障害 症状とメカニズム				関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分			鈴木 將太	
12	失語症 症状とメカニズム				関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分			鈴木 將太	
13	高次脳機能障害・失語症 検査、評価、訓練				関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分			鈴木 將太	
14	言語発達障害 検査法(言語機能検査)				国家試験過去問題を復習しておくこと 約60分			木村 有希	
15	言語発達障害 検査法(発達検査・知能検査)				国家試験過去問題を復習しておくこと 約60分			木村 有希	

回	授業計画	準備学修	担当
16	言語発達障害 検査法(発達検査・知能検査)	国家試験過去問題を復習しておくこと 約60分	木村 有希
17	言語発達障害 訓練法(言語発達遅滞訓練)	国家試験過去問題を復習しておくこと 約60分	木村 有希
18	言語発達障害 訓練法(指導・支援)	国家試験過去問題を復習しておくこと 約60分	木村 有希
19	嚥下の解剖・生理。正常嚥下について	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分	中川 大介
20	嚥下障害の評価について	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分	中川 大介
21	機能性・器質性構音障害	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね60分	須賀川 芳夫
22	吃音	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね60分	須賀川 芳夫
23	発達障害(全般)	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね60分	須賀川 芳夫
24	学習障害	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね60分	須賀川 芳夫
25	ADHD	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね60分	須賀川 芳夫
26	ASD	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね60分	須賀川 芳夫
27	社会福祉関係法規① 社会福祉法	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分	野口 美雪
28	社会福祉関係法規② 生活保護法、児童福祉法	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分	野口 美雪
29	社会福祉関係法規③ 老人福祉法 介護保険法	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分	野口 美雪
30	社会福祉関係法規④ 障害者総合支援法、精神保健福祉法	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分	野口 美雪
教科書	『言語聴覚士国家試験 必須ポイント2024 ST専門科目』医歯薬出版 『言語聴覚士国家試験 必須ポイント2024 ST専門基礎科目』医歯薬出版 『2025年版 言語聴覚士国家試験過去3年間の問題と解説』大揚社		
参考文献			
備考			

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

--

言語聴覚学科 教員一覧

	職位	氏名	研究室	電話番号	E-mail
1	教授	すずき ゆういち 鈴木 裕一	鈴木 研究室	022-302-5480	yi_suzuki@seiyogakuin.ac.jp
2	教授 (学科長)	さくらば 櫻庭 ゆかり	共同 研究室	022-302-5591	y_sakuraba@seiyogakuin.ac.jp
3	准教授	わたなべ ひろと 渡邊 弘人			h_watanabe@seiyogakuin.ac.jp
4	講師	なかがわ だいすけ 中川 大介			d_nakagawa@seiyogakuin.ac.jp
5	助教	すずき まきひろ 鈴木 将太			ms_suzuki@seiyogakuin.ac.jp
6	助教	きむら ゆき 木村 有希			yu_kimura@seiyogakuin.ac.jp
7	助教	えばた あや 江畑 綾			a_ebata@seiyogakuin.ac.jp

言語聴覚学科 実務経験を有する教員の科目一覧

科目名	単位	実務教員	実務の概要
暮らしの中の法律	1	鈴木 一樹	10年以上の実務経験があり、公認会計士として上場企業などの法定監査、税理士として税務業務に従事。
大学生生活論	1	櫻庭 ゆかり	言語聴覚士として20年以上の臨床経験あり。
病理学	1	三木 康宏	東北大学大学院 医学系研究科 病理診断分野 准教授、東北大学病院勤務
解剖学	1	小野寺 健	大学病院で歯科医師として、5年以上の実務の経験を有し、かつ高度な実務能力を有する。
小児科学	1	峯岸 直子	医師として10年以上の経験あり
臨床歯科医学・口腔外科学	1	川村 仁	歯科医師として、30年以上臨床の経験あり。
呼吸発声発語系の構造・機能・病態	1	朴澤 孝治	医師として臨床に30年以上携わっている
聴覚系の構造・機能・病態	1	渡邊 弘人	言語聴覚士として、臨床現場にて10年以上の経験あり。
神経系の構造・機能・病態	1	鈴木 将太	言語聴覚士として、臨床現場にて5年以上の経験あり。
臨床心理学	1	真覚 健	大学教員として学生相談所専任相談員の経験5年以上あり
認知・学習心理学	1	真覚 健	大学教員として学生相談所専任相談員の経験5年以上あり
音声表記・分析学	1	木村 有希	言語聴覚士として、臨床にて5年以上の経験あり。
言語聴覚障害学の基礎	1	渡邊 弘人	言語聴覚士として、臨床現場にて10年以上の経験あり。
失語症概論	1	鈴木 将太	言語聴覚士として、臨床現場にて5年以上の経験あり。
失語症・高次脳機能障害 I	1	鈴木 将太	言語聴覚士として、臨床現場にて5年以上の経験あり。
言語発達障害 I	1	木村 有希	言語聴覚士として、臨床現場にて5年以上の経験あり。
脳性麻痺・運動発達の障害	1	千木良 あき子	歯科医師として臨床に30年以上携わっている
学習障害・発達障害	1	須賀川 芳夫	言語聴覚士として、臨床にて20年以上の経験あり。
運動障害性構音障害 I	1	櫻庭 ゆかり	言語聴覚士として20年以上の臨床経験あり。
摂食嚥下障害 I	1	中川 大介	言語聴覚士として、臨床にて15年以上の経験あり。
成人・小児の聴覚障害	1	坂本 幸	小児聴覚障害児への直接的支援を30年以上行っている。
聴力検査	1	渡邊 弘人	言語聴覚士として、臨床現場にて10年以上の経験あり。
視覚聴覚二重障害・重複障害	1	三科 聡子	視覚聴覚二重障害の専門家として、障害児の支援に5年以上携わっている。
臨床実習 I (見学実習)	1	櫻庭 ゆかり	言語聴覚士として20年以上の臨床経験あり。
自然科学概論	1	鈴木 将太	言語聴覚士として、臨床にて5年以上の経験あり。
健康スポーツ学 I	1	櫻庭 ゆかり	言語聴覚士として20年以上の臨床経験あり。
精神医学	1	菊地 史子	看護師として臨床5年以上携わっている。
リハビリテーション医学	1	水尻 強志	医師として、臨床に30年以上携わっている
耳鼻咽喉科学	1	松谷 幸子	医師として、臨床に30年以上携わっている
生涯発達心理学	1	木村 有希	言語聴覚士として、臨床に5年以上の経験あり。
心理測定法	1	鈴木 将太	言語聴覚士として、臨床に5年以上の経験あり。
福祉心理学	1	木村 有希	言語聴覚士として、臨床に5年以上の経験あり。
聴覚心理学	1	渡邊 弘人	言語聴覚士として、臨床現場にて10年以上の経験あり。
リハビリテーション論	1	渡邊 弘人	言語聴覚士として、臨床現場にて10年以上の経験あり。
言語聴覚障害診断学	1	櫻庭 ゆかり	言語聴覚士として20年以上の臨床経験あり。
失語症・高次脳機能障害 II	2	鈴木 将太	言語聴覚士として、臨床に5年以上の経験あり。
言語発達障害 II	2	木村 有希	言語聴覚士として、臨床に5年以上の経験あり。
音声障害	1	櫻庭 ゆかり	言語聴覚士として20年以上の臨床経験あり。
器質性・機能的構音障害	1	須賀川 芳夫	言語聴覚士として、臨床にて20年以上の経験あり。
運動障害性構音障害 II	2	櫻庭 ゆかり	言語聴覚士として20年以上の臨床経験あり。
吃音概論	1	藤島 省太	病院勤務、吃音支援など5年以上携わっている。
摂食嚥下障害 II	2	中川 大介	言語聴覚士として、臨床にて15年以上の経験あり。
聴能・発語訓練演習	1	坂本 幸	小児聴覚障害児への直接的支援を30年以上行っている。

言語聴覚学科 実務経験を有する教員の科目一覧

科目名	単位	実務教員	実務の概要
補聴器・人工内耳	1	松谷 幸子	医師として、臨床に30年以上携わっている
臨床実習Ⅱ（評価実習）	3	櫻庭 ゆかり	言語聴覚士として20年以上の臨床経験あり。
動作分析の基礎	1	櫻庭 ゆかり	言語聴覚士として20年以上の臨床経験あり。
口腔衛生論	1	中川 大介	言語聴覚士として、臨床にて15年以上の経験あり。
保険診療・介護保険制度	1	櫻庭 ゆかり	言語聴覚士として20年以上の臨床経験あり。
健康スポーツ学Ⅱ	1	櫻庭 ゆかり	言語聴覚士として20年以上の臨床経験あり。
神経心理学	1	鈴木 将太	言語聴覚士として、臨床に5年以上の経験あり。
心理学系総論	1	木村 有希	言語聴覚士として、臨床に5年以上の経験あり。
言語聴覚障害学総論	1	渡邊 弘人	言語聴覚士として、臨床現場にて10年以上の経験あり。
言語聴覚障害学臨床応用	1	鈴木 将太	言語聴覚士として、臨床に5年以上の経験あり。
高次脳機能系総論	1	櫻庭 ゆかり	言語聴覚士として20年以上の臨床経験あり。
聴覚障害学総論	1	渡邊 弘人	言語聴覚士として、臨床現場にて10年以上の経験あり。
音と聴力	1	渡邊 弘人	言語聴覚士として、臨床現場にて10年以上の経験あり。
臨床実習Ⅲ（総合実習前期）	4	櫻庭 ゆかり	言語聴覚士として20年以上の臨床経験あり。
臨床実習Ⅳ（総合実習後期）	4	櫻庭 ゆかり	言語聴覚士として20年以上の臨床経験あり。
生命科学の基礎	1	中村 裕子	言語聴覚士として、臨床にて10年以上の経験あり。
口腔顔面の感覚・運動障害総論	1	櫻庭 ゆかり	言語聴覚士として20年以上の臨床経験あり。
地域リハビリテーション論	1	櫻庭 ゆかり	言語聴覚士として20年以上の臨床経験あり。
認知症のリハビリテーション	1	中村 裕子	言語聴覚士として、臨床にて10年以上の経験あり。
疾病論	1	渡邊 弘人	言語聴覚士として、臨床現場にて10年以上の経験あり。
視覚言語論	1	山本 はづき	言語聴覚士として、臨床にて5年以上の経験あり。
補綴・補装具論	1	櫻庭 ゆかり	言語聴覚士として20年以上の臨床経験あり。
言語聴覚学特別講義Ⅰ	2	櫻庭 ゆかり	言語聴覚士として20年以上の臨床経験あり。
		79	実務経験を有する教員が担当する科目の単位
		93	設置基準上の標準単位数